

NLE Yokohama		Taro6 取り扱い説明書-取付け編	Technical Cataloge	
May 1, 2019			マニュアル番号: T 001 781 J	
FOD	Ver. 02		Page	1 / 44



非常通話装置
Taro6

技術基準適合認定番号
A08-0133004(モデム)
電波法
003-150054(LTE)
電気通信事業法
ADF16004003(LTE)

適用型番 (2019年7月以降出荷製品はこのマニュアルが適用)

DT6B-IP-*** Taro6 LTEタイプ
DT6B-M-*** Taro6 Modemタイプ

注) 型番の***は、オプションを表す英字になります。
例: DT6B-IP-ABN LTE;外部アンテナ;バッテリー付き
例: DT6B-M-NBN モデム;内部アンテナ;バッテリー付き

改版履歴(1/1)

Version	日付	作者	項目
00	2011/01/14	SK	Taro6 Plus prerelease
01	2019/06/01	SK	LTE モジュール版 作成
02	2019/08/27	SK	26頁『LTE電波強度の確認』LTE(4G) WCDMA(3G)項目を追記

■ 機能表

Taro6(DT6B) 機能表を示します。

機能表(1/1)

区分	No.	内容	Taro6 (DT6B-...)
非常 通話 機能 (e v o i c e)	1	非常通話装置 機能	○
	2	リモートパラメータ設定機能	○
	3	##0 ログイン・パスワード機能	○
	4	##1・2 非常通話 発報先電話登録機能1～2	○
	5	##5 Taro_ID 登録機能	○
	6	##6 非常ボタン感知後発報遅延時間設定機能	○
	7	##7 モード設定機能	○
	8	##8 かがアナウンス録音機能	○
	9	##9 現場名アナウンス録音機能	○
	10	**30n 非常通話・発報先電話登録機能3～5 n=3～5	○
	11	**320nn 非常ボタン押し下げ検知時間の設定	○
	12	**371n 発報優先順位設定 n=0データ優先, 1直話のみ, 2直話優先	○
	13	**372n 現場名通知種別レベル 再生設定 n=0～3	○
	14	**381X かがアナウンス切替え設定 X=0(標準), X=1(ユーザー)	○
	15	**830n 非常通話 発報先電話番号を音声再生 n=3～7	○
	16	**838n かがアナウンス設定内容をアナウンスにてお知らせ	○
	17	**901 通話時間延長機能 (コマンド入力時4分延長, 1回のみ)	○
	18	**800n ##1～##9設定内容を音声再生 n=1～9	○
	19	**3800 かがアナウンス消去時呼び出し機能	○
	20	**8320 非常ボタン押し下げ検知時間を音声アナウンスでお知らせ	○
	21	**8371 発報優先順位を音声アナウンスでお知らせ	○
	22	**8372 現場名通知種別を音声アナウンス	○
	23	コールセンター呼び出し時、号機音声アナウンス選択(1～99号機)	○

※ 詳しい設定方法は、28ページをご覧ください。

【目次】

■ はじめに・注意事項	4
■ 保証および修理について	5
■ 免責・著作権	6
■ 安全に関する表示について	7
■ 安全上の注意	8
1. 取り付け手順 概要	11
2. 事前作業	12
2.1 電話回線の準備	12
2.2 接続するインターホン型式確認	12
2.3 基板の確認	13
3. 取り付け作業	14
3.1 取り付け場所の選定	14
3.2 本体取り付け	14
3.3 アース線の取り付け	14
3.4 インターホンとの接続	14
3.5 電話回線の接続	20
3.6 LTEアンテナの種類	20
4. 着信確認作業	22
4.1 電源の投入	22
4.1.1 リセット方法	22
4.2 NTT回線	23
4.3 LTE回線	25
5. パラメータ設定作業	28
5.1 設定手順	28
5.2 設定コマンド	29
6. 動作確認作業	34
6.1 発信動作・着信動作の確認	34
6.2 通話中の確認	38
7. 終了作業	39
7.1 バッテリー接続	39
8. 特記事項	40
9. インターホン信号真理値表	40
9.1 6V単局 / 6V多局LEDランプ動作表示	40
9.2 24V単局 / 24V多局LEDランプ動作表示	41
付録1 装置仕様	42
付録2 ROCSAA2基板 部品配置図	44

はじめに

- ・ご利用いただきましてありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。お読みになった後は、いつでも見られる場所に保存して下さい。
- ・この製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本機を使用できるのは日本国内のみです。国外では使用できません。
- ・また本装置の保証サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではご利用できませんのでご了承下さい。

注意事項

- ・本機器を不法改造すると法令により処罰されることがあります。
- ・本機の技術基準適合証明ラベルや製造番号をはがさないで下さい。効力を失う等、使用できなくなる場合があります。

保証及び修理について

■無償保証期間

- ・無償保証期間は、納入後12ヶ月です(有償修理品の故障に対しては、同一部位のみ修理後3ヶ月)。
- ・無償保証期間終了後は、有償での修理となります。

■無償保証範囲

- ・上記無償保証期間中、弊社製品の使用環境・使用状態・使用方法などがマニュアル・取扱説明書・製品本体注意ラベル等に記載された諸条件や注意事項に従っていた場合にのみ限定致します。
- ・無償保証期間内であっても、次のような場合には有償修理となります。
 - ⇒納入後の輸送(移動)時の落下、衝撃等、貴社の取扱い不适当により生じた故障損傷の場合。
 - ⇒カタログ・マニュアル記載の仕様範囲外で、使用された場合。
 - ⇒取扱説明書に基づきメンテナンス、消耗部品の交換保守等が正しく行われていれば防げたと認められる故障の場合。
 - ⇒火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
 - ⇒接続している他の機器、および不適当な消耗品の使用に起因して本製品に生じた故障および損傷。
 - ⇒販売当時の科学・技術の水準では予見できない原因による故障の場合。
 - ⇒その他、貴社による故障、損傷または不具合の責と認められる場合。

- ・弊社以外で修理、改造等をされたと認められる場合には、たとえ有償であっても修理をお断りすることがございます。

■生産中止と中止後の修理期間(有償修理)について

- ・弊社製品の生産中止は、最終出荷の3ヶ月前に通知・連絡いたします。
- ・生産中止を通知した月を起点として1年間は、当該製品の修理を行います。(2019年5月現在)
- ・上記期間に限らず、交換部品が入手不可能となった場合には、修理できなくなることがございますのでご了承下さい。

■修理条件

- ・修理は、弊社製品のみを対象といたします。
- ・修理に際し、お客様のプログラムやデータが消失することがございますので、予めデータを保存するようにしておいてくことをお勧め致します。
- ・修理は、センドバックによる弊社工場修理を原則とさせていただきます。この場合、弊社工場への送料はお客様のご負担にてお願い致します。
- ・修理にて交換された部品の所有権は株式会社日本リフツエンジニアリングに帰属するものといたします。

免責

- ・本書の内容に関しては、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点があれば、弊社カスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。
- ・また上記に関わらず、以下の事柄については弊社は一切責任を負いません。
 - ⇒本製品に付随する、または運用の結果もたらされたいかなる損害。
 - ⇒本製品によりもたらされるべき、直接的、間接的な効果および利益の損失。
 - ⇒本製品のために費やした時間、経費。
 - ⇒弊社の責任によらない製品の損傷、破損、または改造による故障や不具合など。
 - ⇒本製品をご使用になって生じたデータの消失、または破損。
 - ⇒本製品をご使用になって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常。
- ・弊社は、製品および本書を改訂し、随時その外観・内容のすべてを変更する権利を有します。またその際に、改訂または変更をいかなる個人または団体に対して通知する義務を負いません。

版權

- ・本書は弊社が著作権を有します。
- ・本書の一部または全部について、弊社の書面による承諾を得ない以下のことを禁じます。
 - ⇒形式または手段を問わず複製・複写・転載すること。
 - ⇒派生物(翻訳・変形・改作・流用)を作成すること。

安全に関する表示について

・本製品を安全に正しくご使用頂くために、注意事項を次のような表示と図記号で表しています。ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ず守って下さい。

・表示と意味は次のとおりです。



危険

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

安全上のご注意

**危険**

バッテリーの取扱い

- ・バッテリーは以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因になります。
 - ⇒本製品以外の機器に取り付けしないで下さい。
 - ⇒火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしないで下さい。
 - ⇒端子を針金などの金属類でショートさせないで下さい。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないで下さい。
- ・液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後直ちに医師の治療を受けて下さい。液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流して下さい。

**注意**

使用環境・条件

■設置環境条件

- ・本製品の上に重いものを置かないで下さい。故障・けがの原因になります。
- ・本製品は主電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)へ容易に手が届くようにして下さい。万一、機器から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した時は、ただちに機器本体の電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
- ・濡れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
- ・本製品を直射日光が当たる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないで下さい。感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因になることがあります。
- ・本製品を布などでおおったり、包んだりしないで下さい。設置の際は本製品と壁の間に1cm以上のすき間をあけ、通気孔などの開口部をふさがないで下さい。また、通気孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的に埃を取って下さい。内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- ・電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないで下さい。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となることがあります。
- ・アース線はガス管には絶対に使用しないで下さい。火災の原因になります。
- ・電源プラグは、壁のコンセント(AC100V)に直接かつ確実に接続して下さい。また、タコ足配線をしないで下さい。感電・火災の原因になります。

- ・電源プラグはコンセントから定期的に抜いて、コンセントとの接続部分の埃やゴミを乾いた布でよくふき取って下さい。埃がたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因となります。
- ・ACアダプターの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないで下さい。感電・火災の原因になります。
- ・電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないで下さい。重いものを乗せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。
- ・近くで落雷のおそれがある場合は、本製品の電源ケーブルや電話ケーブルを抜き、雷が止むまで取り付けしないで下さい。そのまま使用すると、落雷による感電・火災の原因となります。
- ・添付もしくは指定された以外のACアダプターを本製品に使ったり、添付のACアダプターを他の製品に使ったりしないで下さい。感電・火災の原因になります。
- ・振動している場所や傾いたところなどの不安定な場所に置かないで下さい。本製品が倒れたり、落下して、故障やけがの原因になります。
- ・ACアダプターや電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込み、不完全な接続状態で使用しないで下さい。火災・故障の原因となることがあります。
- ・電源ケーブルをぬくときは、電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いて下さい。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり、断線したりして、感電・火災の原因になることがあります。
- ・本製品を移動する場合は、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。また、接続ケーブルなども外して下さい。
- ・作業は足元に十分注意して行って下さい。電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因になったり、本製品が落下したり倒れたりして、故障やけがの原因になることがあります。

■使用環境・条件

- ・直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないで下さい。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因になることがあります。
- ・湿気の多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないで下さい。火災・感電・故障の原因になることがあります。
- ・ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないで下さい。落ちたり、倒れたりしてけがの原因になることがあります。
- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないで下さい。火災・感電・故障の原因になることがあります。

■使用方法について 保守・点検

- ・お手入れの際は、ACアダプターをはずし、バッテリーを外して下さい。
- ・水滴が付いたら、乾いた布でふき取して下さい。汚れのひどい時は、水で薄めた中性洗剤をご使用下さい。シンナーやベンジンは使用しないで下さい。

■異常時の処置について

- ・内部に水や異物が入った場合や、落したり、ケースを破損した場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
- ・煙りが出たら、すぐにACアダプターをはずし、バッテリーを外して下さい。

1. 取り付け手順 概要

Taro6(DT6B-×-×××)を以下に示す手順で取り付けます。

STEP 1

事前作業 詳細は「2. 事前作業」12ページを参照して下さい。

- ①電話回線の準備
- ②基板の確認

STEP 2

取り付け作業 詳細は「3. 取り付け作業」14ページを参照して下さい。

- ①取り付け場所の選定
- ②インターホンの接続
- ③電話回線の接続

STEP 3

着信確認作業 詳細は「4. 着信確認作業」22ページを参照して下さい。

- ①着信確認

STEP 4

設定作業 詳細は「5. パラメータ設定作業」28ページを参照して下さい。

- ①パラメータの設定

STEP 5

動作確認作業 詳細は「6. 動作確認作業」34ページを参照して下さい。

- ①発信動作
- ②着信動作

STEP 6

終了作業 詳細は「7. 終了作業」39ページを参照して下さい。

- ①バッテリー接続

2. 事前作業

2. 1 電話回線の準備

1) LTE回線の場合 (DT6B - IP - * * *)

SIMカードは工場出荷時に開通済みで発送され、LTEモジュールにセットされています。

従いましてお客様に納入された時には開通手続き完了となっております。

ご不明な点は、弊社担当営業までお問い合わせ下さい。

2) NTT回線の場合 (DT6B - M - * * *)

開通済みのNTT回線をご用意して下さい。

本装置のTELコネクタはRJ-11です。

一般の電話モジュラーケーブル(6芯)で接続することができます。

通信はモジュラーコネクタ(6極2芯)の内、右図の様にL1とL2を使用しています。

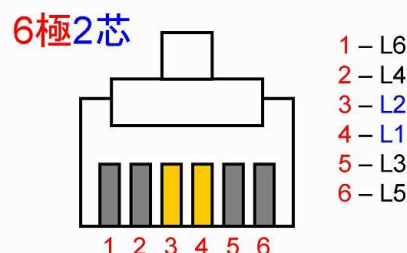


図2.1-1 モジュラーコネクタ RJ-11

2. 2 接続するインターホン型式確認

1) 本装置1台で下記に示すNIC社製インターホンに対応(オール イン ワン)。

表2.2-1 対応するインターホン

製造メーカー	種類		親/子	型番	接続数	備考
NIC(株)	6V	単局	親機	E-01MV/E-01MV2	1	
			子機	E-01RV(C)	1	
		多局	親機	E-06MV(2)	1	
			子機	E-06RC(C)	1 ~ 4	
	24V	単局	親機	EZ-01MV(2)	1	
			子機	EZ-RV(C)	1	
		多局	親機	EZ-05(10)MV	1	
			子機	EZ-RV(C)	1 ~ 4	
アイホン	-	-	-	-	-	未対応
ナショナル	-	-	-	-	-	未対応

※ 接続数が5～6台以上のエレベーターの対応方法は？

本装置を2台以上使用する事で対応が可能です。

6V多局の場合・・・接続方法を弊社カスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。

24V多局の場合・・・共通線(符号: +, - L1, L2)は、本装置の1台目並びに2台目に接続します。

選局線の1A・1B～6A・6Bは、1台目の装置へ1A～4Bまで接続し、

2台目には5A～6Bまでを接続します。

2. 3 基板の確認

1) ディップスイッチの確認と設定

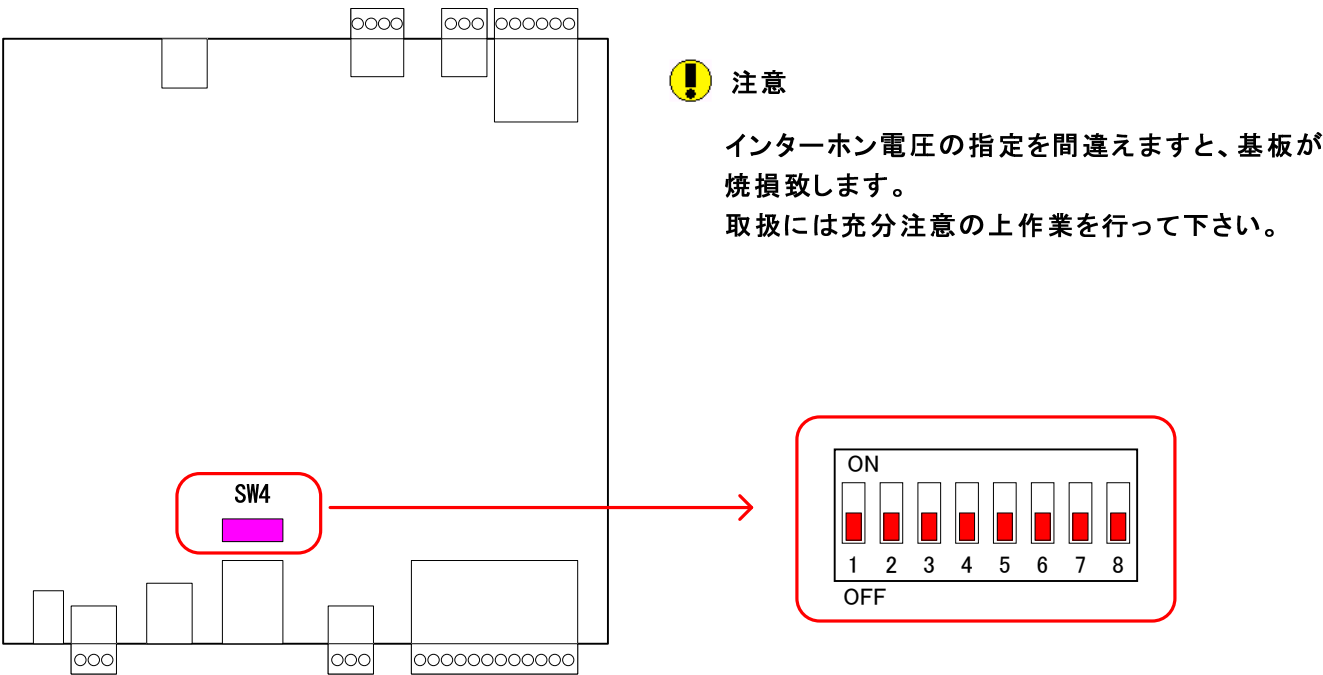


図2.2.2-1 ディップスイッチ

- DSW-1 インターホンの電圧を指定します。
ON: 24V
OFF: 6V
- DSW-2 インターホンの子機種種別を指定します。
ON: 多局
OFF: 単局
- DSW-3 電話回線の種別です。
型番がDT6B-IP-***の場合は、ON:LTE回線 になっている事を確認して下さい。
型番がDT6B-M-***の場合は、OFF: NTT回線 になっている事を確認して下さい。
- DSW-4 ; DSW-5 : DSW-6 : DSW-7 : DSW-8
本装置では必ずOFFにして下さい。

種別			ディップスイッチ							
電圧	局数	回線	1	2	3	4	5	6	7	8
6V	単局	NTT	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
6V	多局	NTT	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
24V	単局	NTT	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
24V	多局	NTT	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
6V	単局	LTE	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
6V	多局	LTE	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
24V	単局	LTE	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
24V	多局	LTE	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

3. 取り付け作業

3. 1 取り付け場所の選定

1) 全般

- a. 直射日光が長時間あたる場所は避け下さい。
- b. 本体へ常に水がかかる場所は避けて下さい。

2) LTE回線の場合

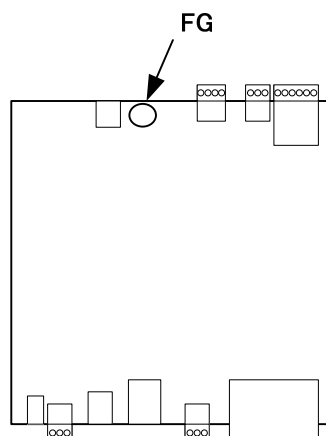
- a. 加入契約されたLTE事業者のサービスエリア内であること。
- b. 建築・構造物で電波が遮断されていないこと。
- c. 特に金属の壁面への取付は避けること。

3. 2 本体取り付け

本装置は壁取り付け用に上部と下部に取り付け穴を用意しています。付属のネジで留めて下さい。

3. 3 アース線の取り付け

本装置の基板FG部にアース端子を設けてあります。建屋へのアース接続を行って下さい。



3. 4 インターホンとの接続

1) インターホン電圧の確認

6Vの場合、親機と子機で通話中のときインターホン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が5.0V(定格6V)以上であることをテスターで確認して下さい。

24Vの場合、親機と子機で通話中のときインターホン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が2.0V(定格24V)以上であることをテスターで確認して下さい。

2) インターホンとの接続



注意

- a. 安全の為、インターホン側の電源を切った状態で作業を行って下さい。
- b. 使用する線は、単線/撚線 AWG#28-#16 1.5mm² 被服剥き処理 6-7mm
- c. インターホンの端子と本装置の端子TB4を次ページ以降に示す接続図を参考にして接続して下さい。

図3.4.2-1 インターホンを接続する端子(TB4)図

図3.4.2-2 インターホン6V単局の接続図

図3.4.2-3 インターホン6V多局の接続図(標準型)

図3.4.2-4 インターホン6V多局の接続図(H型)

図3.4.2-5 インターホン6V多局の接続図(RG2型)

図3.4.2-6 インターホン24V単局/多局の接続図

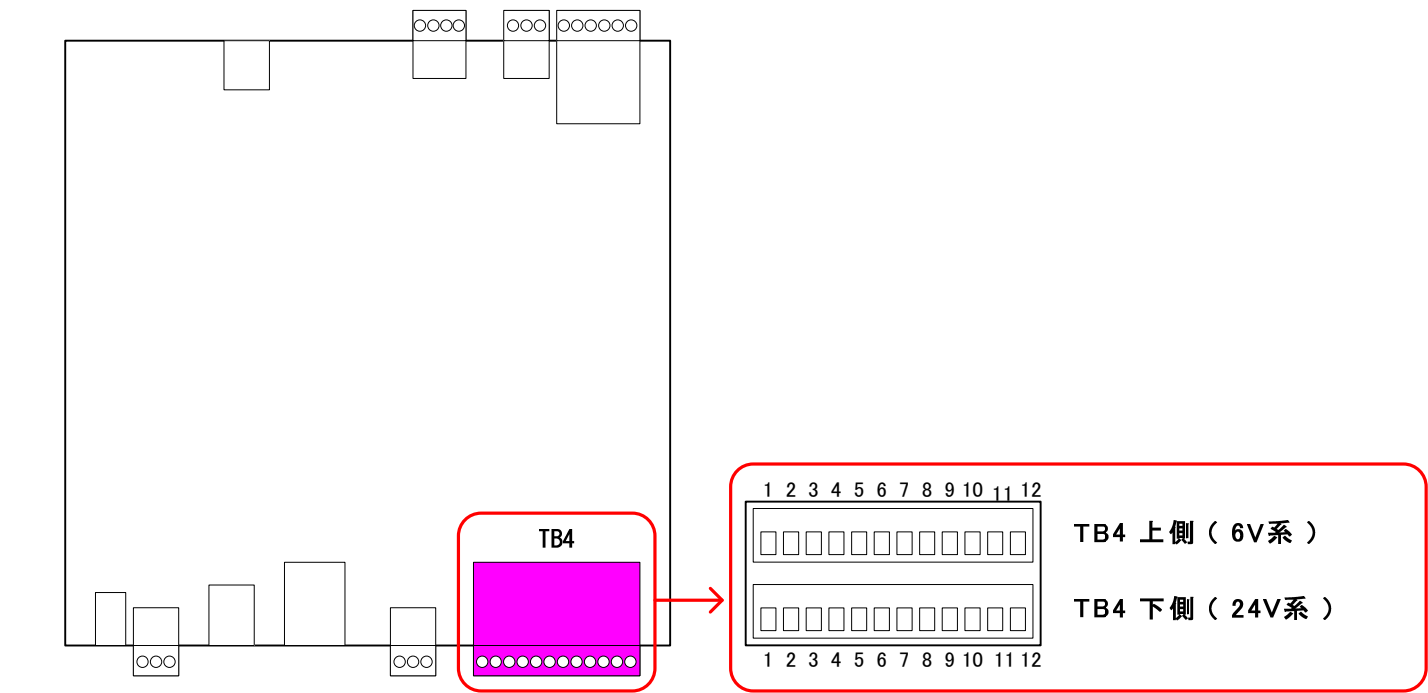


図3.4.2-1 インターホン接続端子(TB4)

表3.4.2-1 インターホン接続端子の割り当て(TB4)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
TB4-上側	6V系	L	R	-	+	C	M1	M2	M3	M4			
TB4-下側	24V系	+	-	L1	L2	1A	1B	2A	2B	3A	3B	4A	4B

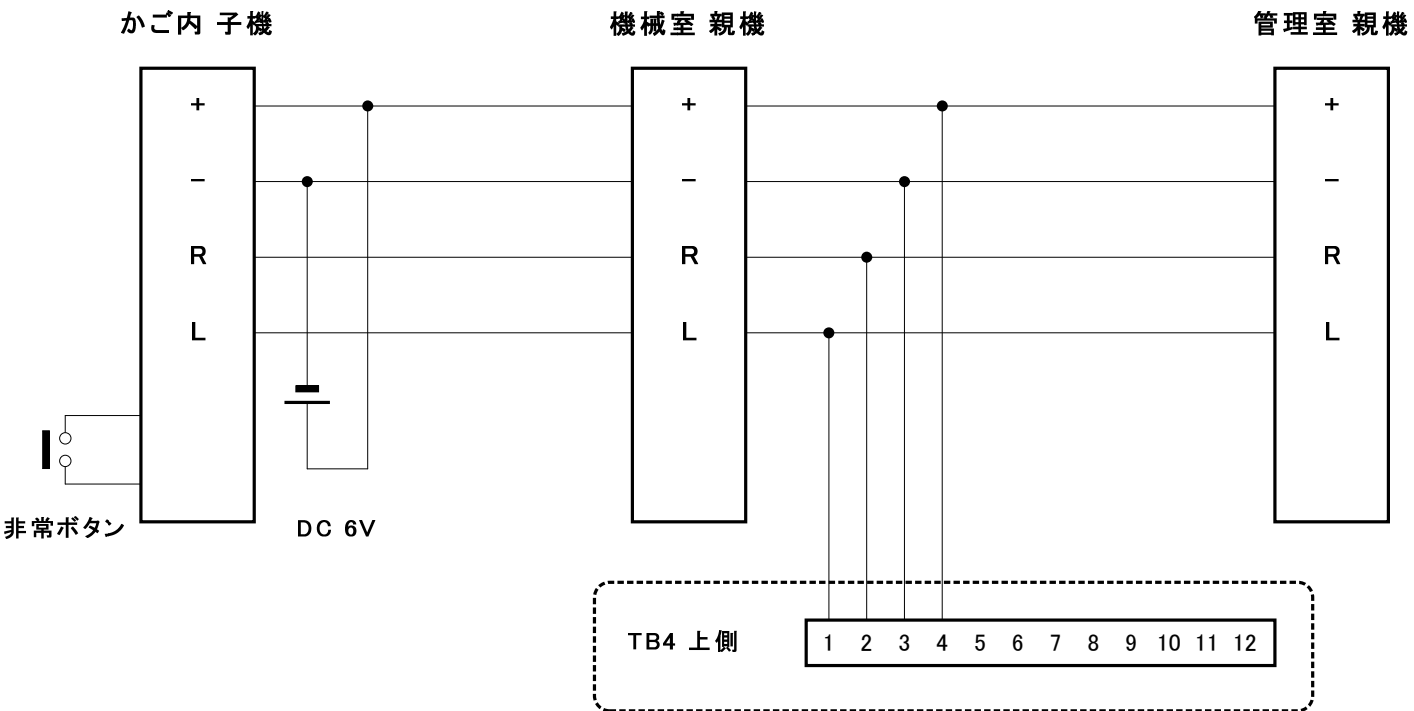


図3.4.2-2 インターホン 6V単局接続図

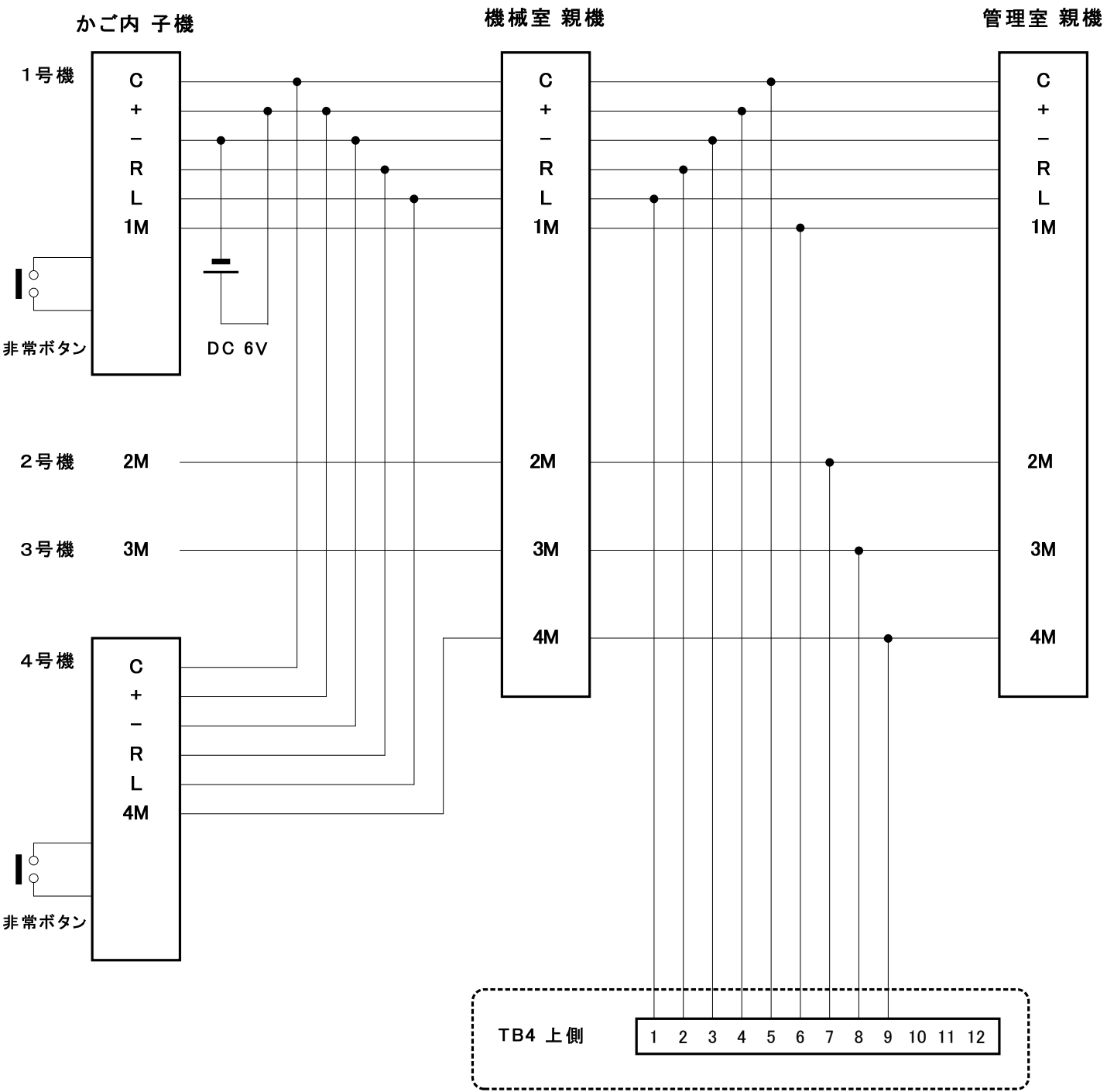
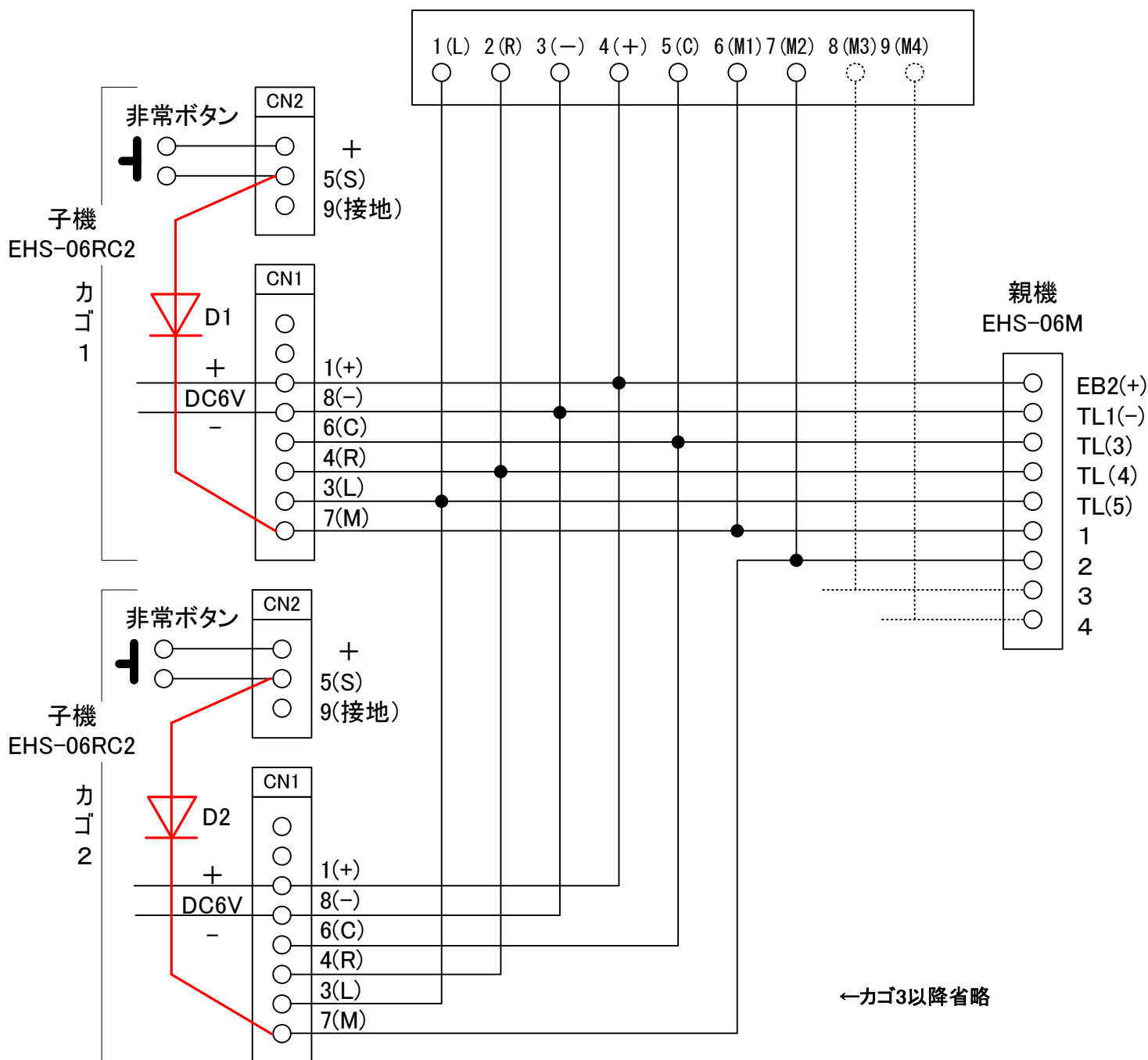


図3.4.2-3 インターホン 6V多局接続図(標準型)

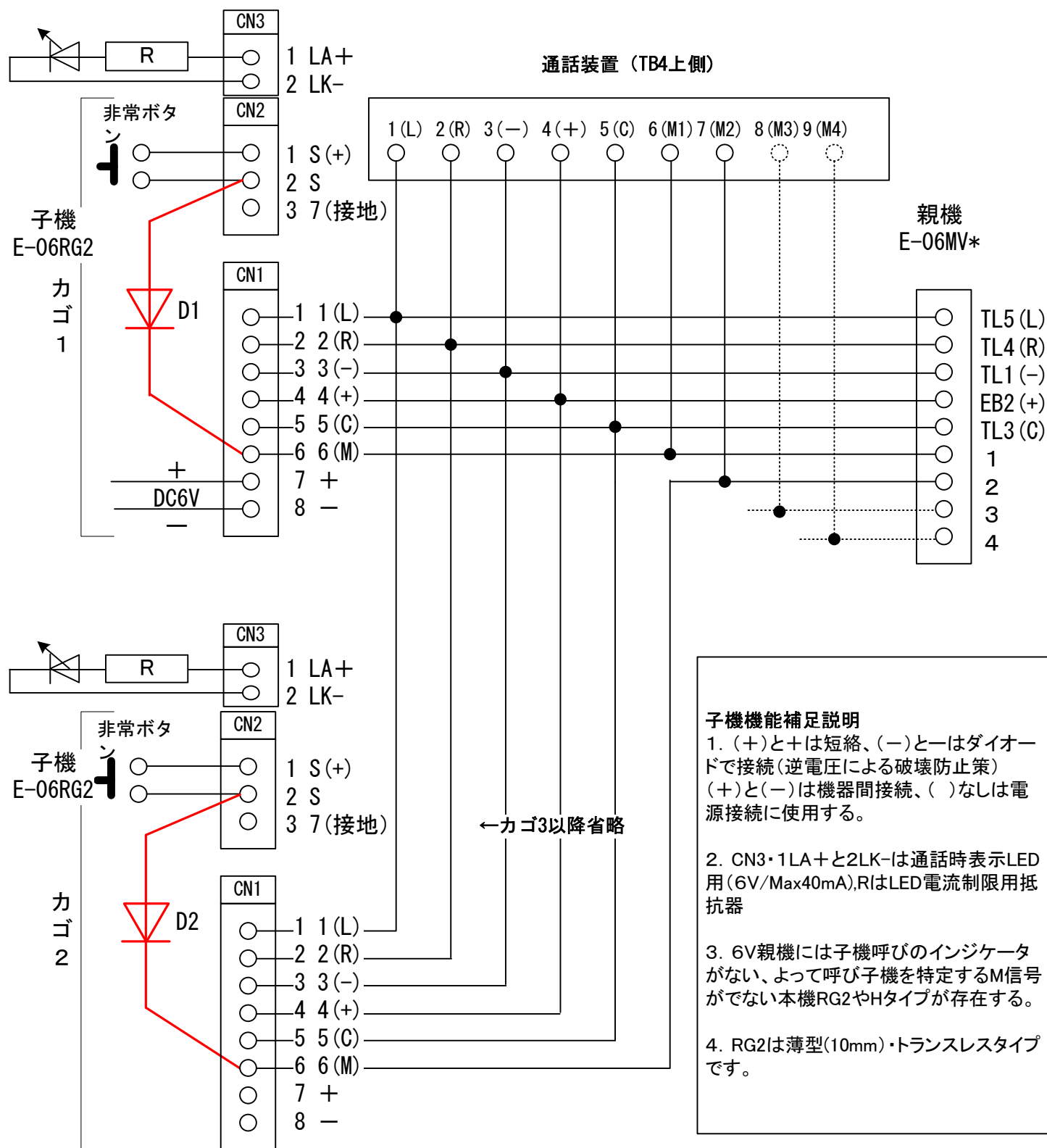
注)
EHS型の場合は、図3.4.2-4 インターホン 6V多局接続図(EHS型) を参照して下さい。
RG2型の場合は、図3.4.2-5 インターホン 6V多局接続図(RG2型) を参照して下さい。

通話装置 (TB4上側)



- 本図はEHS-06M⇔EHS-06RC2インターホンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図です。
- 子機の非常ボタンを押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図です。
- 朱書き部のD1、D2……ダイオードを追加します。
D1、D2: 逆電圧12V以上、順電流10mA。ダイオード1S1588相当(東芝)
- 本回路図は一例です。
本図を参考に実システム(実配線)に応じた追加工事を行って下さい。

図3.4.2-4 インターホン 6V多局接続図(OEM製品 EHSタイプ)



- 本図はRG2形インターホンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図です。
- 子機の非常ボタンを押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図です。
- 朱書き部 (CN2・2~CN1・6の間にD1、D2・・・ダイオードを追加して下さい。
ダイオード仕様: 逆電圧12V以上、順電流10mA。ダイオード1S1588相当(東芝)
- 本回路図は一例です。
本図を参考に実システム(実配線)に応じた追加工事を行って下さい。

図3.4.2-5 インターホン 6V多局接続図(RG2型)

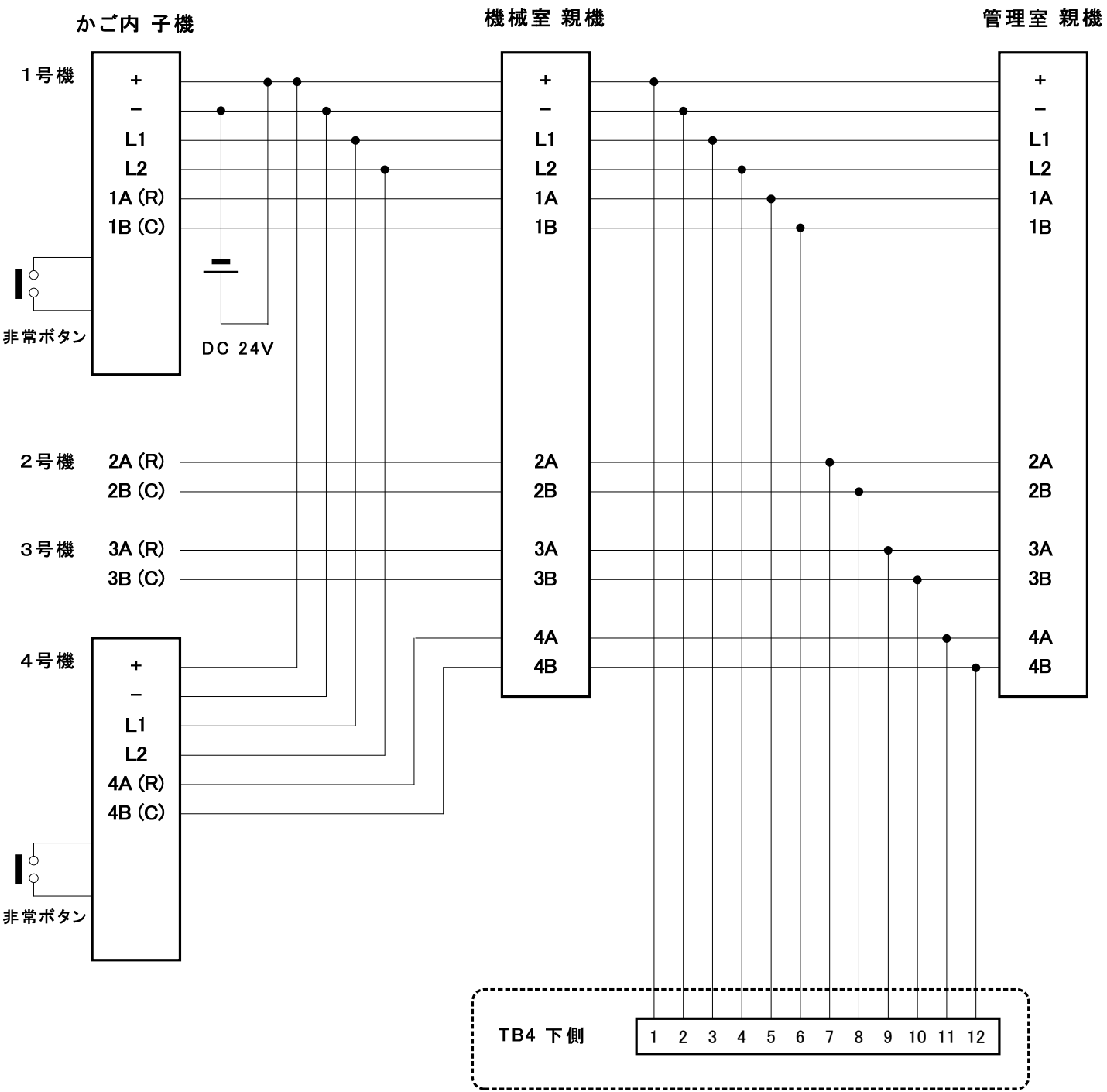


図3.4.2-6 インターホン 24V単局/多局接続図

3. 5 電話回線の接続

1) NTT回線の場合(モデム DT6B - M - * * *)

CN3-TELにモジュラコネクタ(RJ-11)を下記の部分に接続します。

3. 6 LTEアンテナの種類

1) LTEモジュール(JE-B30)用アンテナ

アンテナはメイン/サブアンテナの2種類があります。

a. メインアンテナ(ケーブル長: 5m)

工場出荷時に同梱されてますので確認下さい。

b. サブアンテナ

工場出荷時にケース内に取り付け・接続されていますので確認下さい。

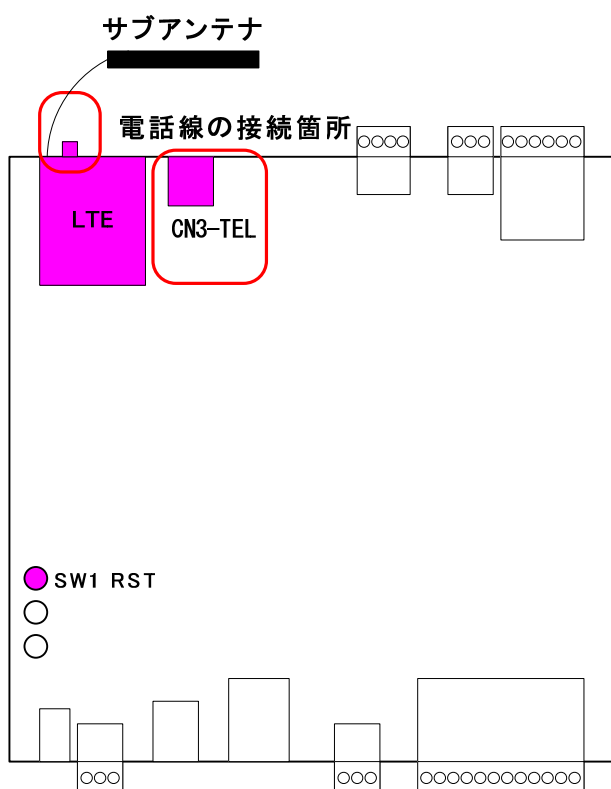


図3.5.1-1 電話回線関連の端子図



写真3.6.1-1 メインアンテナ(CTA-002)
取付け状況(ケーブル長: 5m)



写真3.6.1-2 サブアンテナ(FXP14)
取付け状況

2) LTEモジュール(JE-B30)用アンテナ

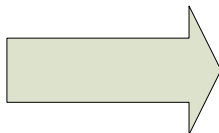
サブアンテナが取り付けられていることを確認。

メインアンテナを下記の様に取り付けてください。

本運用ではメイン並びにサブアンテナの両方が取り付けられている事を確認して下さい。



写真3.6.2-1 LTEモジュール(JE-B30)と
FXP14サブアンテナ



サブアンテナ設置・調整の必要なし

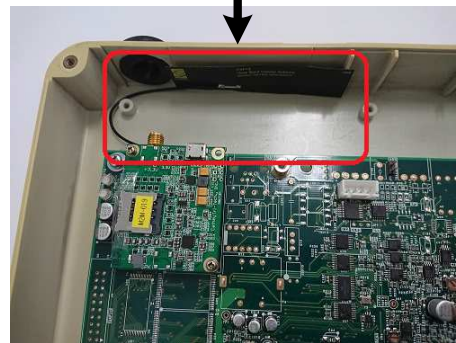


写真3.6.2-2 サブアンテナ(FXP14)
工場出荷時



写真3.6.2-3
メインアンテナ(CTA-002)



ネジを回し固定する



写真3.6.2-4 メインアンテナ(CTA-002)



マグネット式で金属面に固定



注意

地面から垂直となるよう調整して下さい。

4 着信確認作業

4. 1 電源の投入

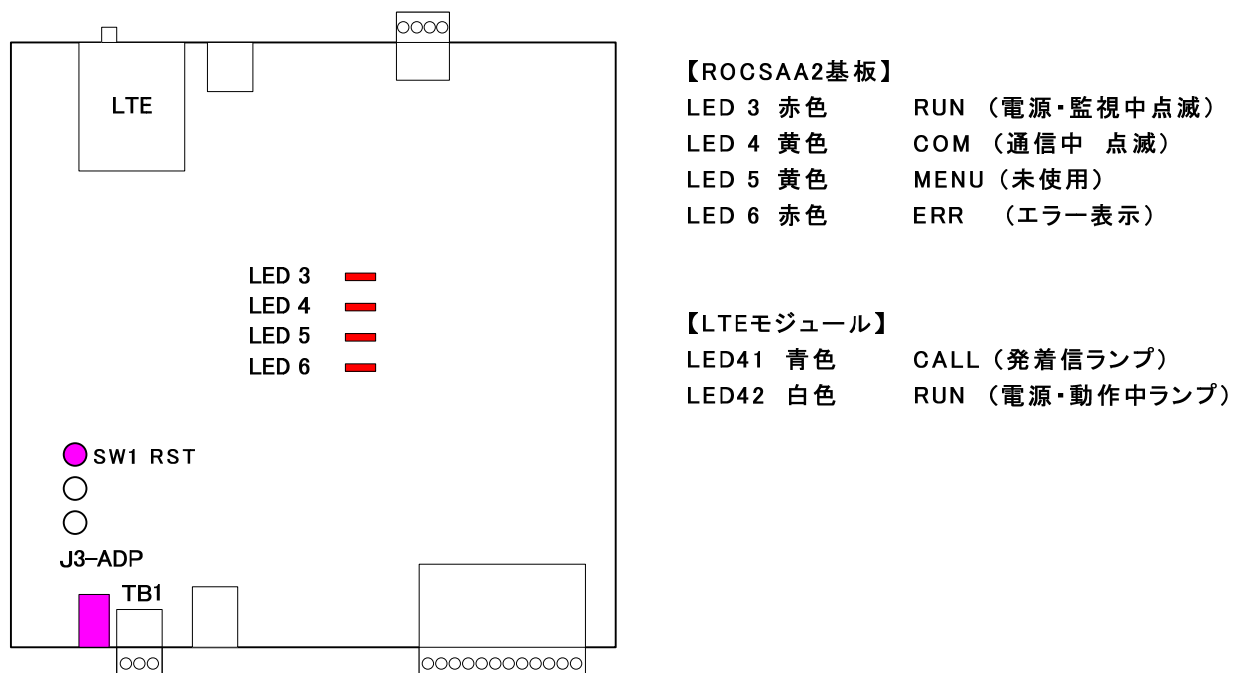


図4.1-1 実装図(電源、LED)

1) ACアダプター添付品の場合 (DT6B - * - * B *)

- ① J3-ADPに付属のACアダプターのジャックを差し込みます。
- ② ACアダプターをAC100V電源に差し込みます。

③ モデム版(NTT回線)の場合は、次ページに進んで下さい。

④ LTE回線の場合は25ページに進んで下さい。

電源投入後、約15秒間はROCSAA2基板並びにLTEモジュールはLED表示されませんのでご確認下さい。

初期化を行っており不具合ではありません。

4. 1. 1 リセットの方法

上記のボタン(SW1 RST)を押すとプログラム再起動(リセット)されます。

4. 2 NTT回線

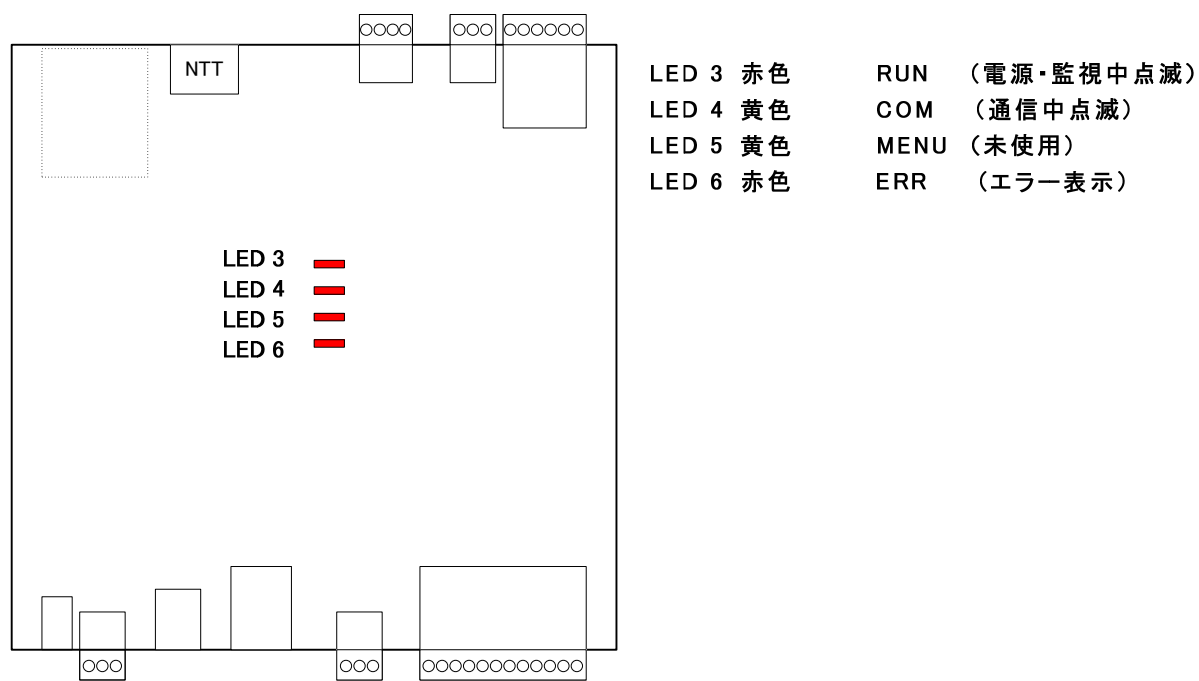


図4.2-1 実装図(NTT回線 LED)

- 1) 初期化～監視中
- ① 電源を投入します。
4.1項を参照
 - ② 図4.2-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です。
 - ②-1 初期化中
LED3、LED4、LED5が順次点滅
 - ②-2 監視中
LED3のみ点滅

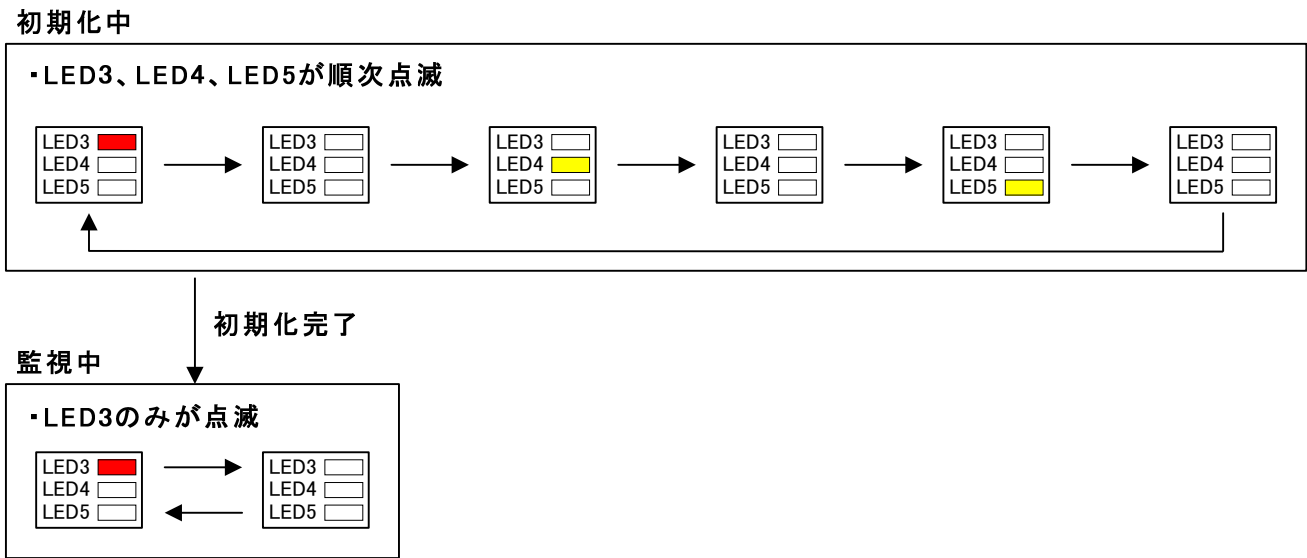


図4.2-2 状態LEDの遷移(初期化～監視中)

2) 着信確認

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号にダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回(約4コール)聞こえます。
- ③ 呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。
- ④ 連続音が止まると着信状態(かご内通話は不可)になります。
 - ・通話中はLED4のみが点滅します。
 - ・この状態パラメータ設定を行う事が出来ます。(27ページ)
- ⑤ 発信側の電話器で終話ボタンを押し回線を切断します。
 - ・回線切断後は、監視中に戻りLED3のみが点滅します。

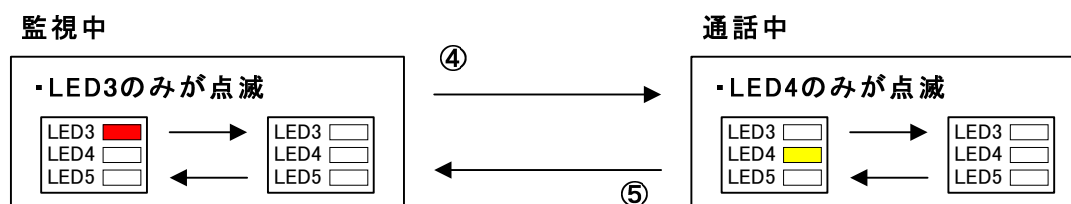


図4.2-3 状態LEDの遷移(音声着信)

! 注意

通話の動作確認を行う場合は、電話器より#1を押して下さい。かご内と通話出来ます。

着信確認が終了出来ましたら28ページに進んで下さい。

4.3 LTE回線

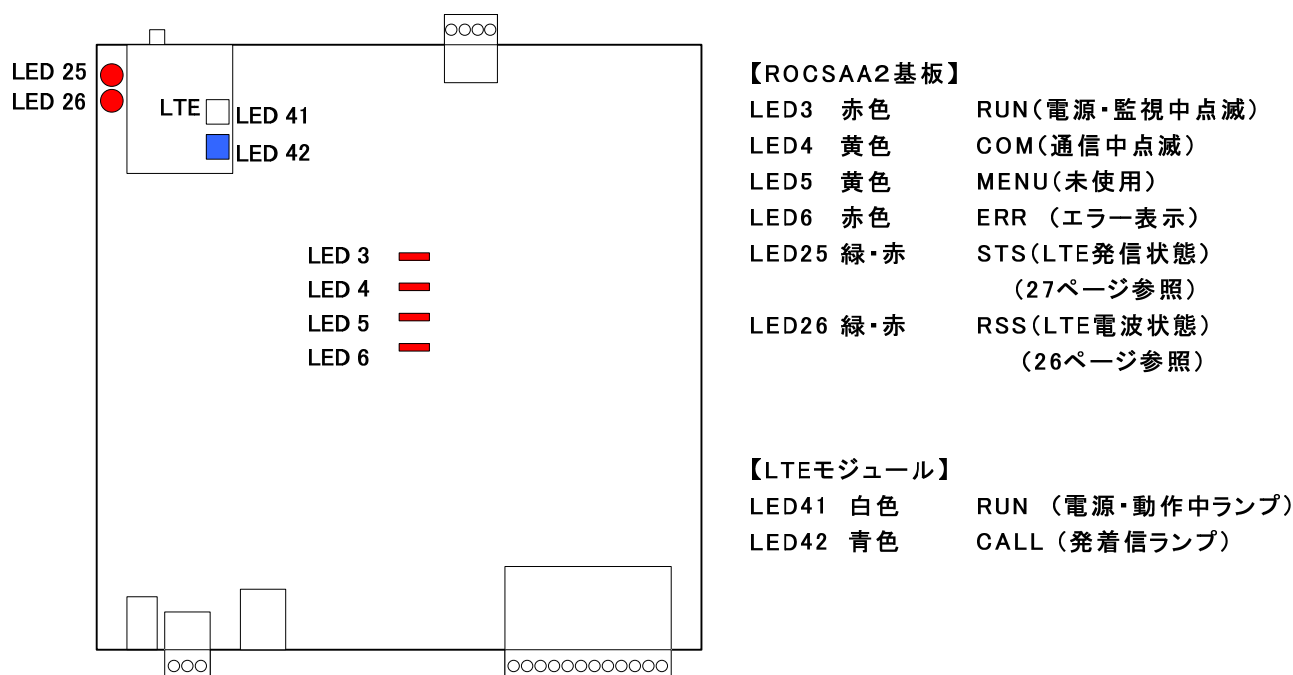


図4.3-1 実装図(LTE回線 LED)

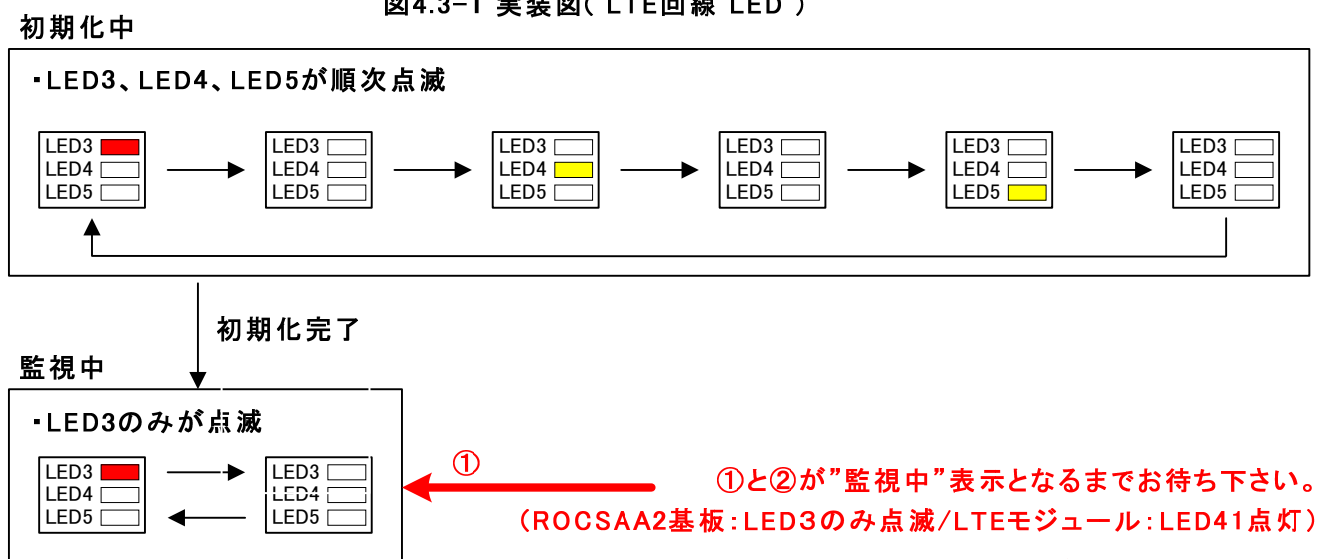


図4.3-2 ROCSAA2基板 LEDの遷移(初期化～監視中)

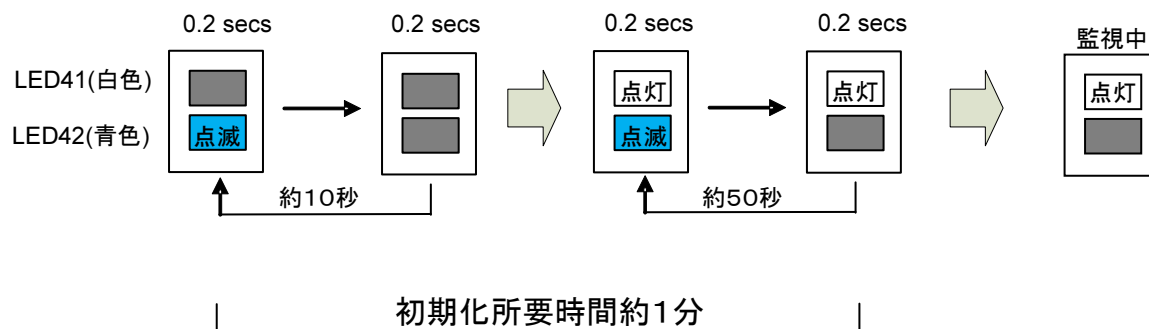


図4.3-3 LTEモジュールLEDの遷移(初期化～監視中)

1) 初期化～監視中

① 電源を投入します。

4.1項を参照

② ②-1 初期化中

図4.3-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です。

図4.3-3に示すようにLED41・42初期化表示を行い最終的にLED41が点灯すれば準備完了です。

電源投入後、約15秒間はROCSAA2基板並びにLTEモジュールはLED点灯しません。

その後 約50秒間初期化を行った後監視中となります。

②-2 監視中

LED3点滅、LED41点灯



注意

電源投入後約15秒間は表示ランプが点灯しません。不具合ではありませんので、暫くお待ち下さい。

2) 電波状態の確認

① 図4.3-3に示すRSS(LED26)の表示内容でLTE(4G)帯域/WCDMA(3G)帯域電波を受信した状態を確認します。(電波受信は、LTE(4G)もしくはWCDMA(3G)のどちらかを自動的に切替ますが、どちらの信号であっても、電波状態が強ければデータ通信は行われます。)

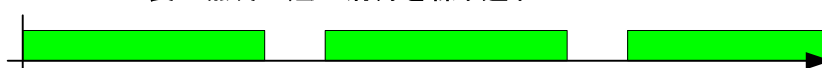
電波状態 かなり強い

Berレベル3-常時点灯



電波状態 やや強い

Berレベル2-長い点灯と短い消灯を繰り返す



電波状態 やや弱い

Berレベル1-同じ間隔で点灯と消灯を繰り返す



電波状態 かなり弱い

Berレベル0-短い点灯と長い消灯を繰り返す



電波状態 圏外

圏外-短い点灯とBerレベル0より長い消灯を繰り返す



電源OFF

消灯

図4.3-3 電波状態(LED26)の表示内容

【LED26の点灯説明】

LTE (4G) : 緑色点灯は4G帯域電波を受信中

WCDMA (3G) : 赤色点灯は3G帯域電波を受信中

Barレベル3 : [緑/赤] 常時点灯 (電波状態 強い)

Barレベル2 : [緑/赤] 点滅パターン1 (電波状態 やや強い) ON(0.9秒)_OFF(0.1秒)

Barレベル1 : [緑/赤] 点滅パターン2 (電波状態 やや弱い) ON(0.5秒)_OFF(0.5秒)

Barレベル0 : [緑/赤] 点滅パターン3 (電波状態 かなり弱い) ON(0.1秒)_OFF(0.9秒)

圏外 : [緑/赤] 点滅パターン4 (電波状態 圏外) ON(0.1秒)_OFF(1.9秒)

WCDMA/LTE以外・その他/不明 : [緑/赤] ON(0.1秒)_OFF(0.1秒)

3) 着信確認

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回(4回程)聞こえます。
- ③ 呼び出し音が止まると通話状態になります。
- ④ 発信側より終話ボタンを押すことで回線を切断します。

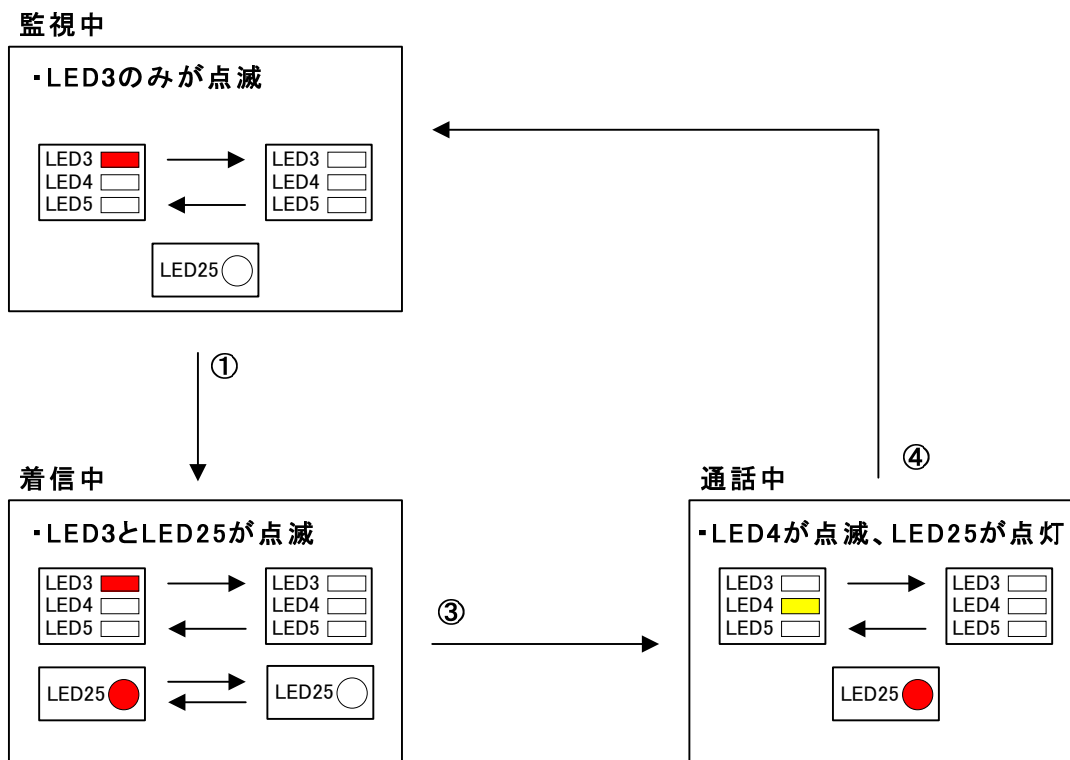


図4.3-4 状態LEDの遷移(LTE音声着信)

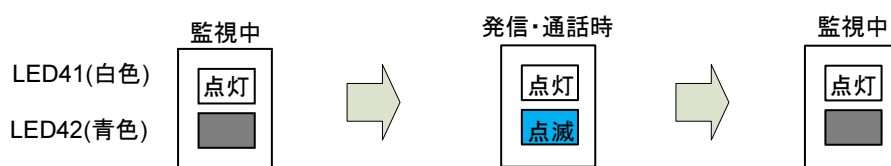


図4.3-5 LTEモジュール LEDの遷移(LTE音声着信)

【注意】

呼び出し音の代わりにメッセージが聞こえた場合。

「こちらはソフトバンクです。おかけになった電話は電波が届かない場所にいらっしゃるか、電源が入っていないため掛かりません。」

- ・開通済みであるが、電波が届かない。

「おかけになった電話番号は現在使われておりません。」

- ・開通手続きが未完了。
- ・開通済みであるが、基地局に対して位置情報が登録できていない。

5 パラメータ設定作業

5.1 設定手順

1) 着信操作

- ① 電話機(携帯電話)より本装置の電話番号をダイヤルする。
- ② 通話状態になるのを待つ。

2) ログイン操作

- ① ##09999 を入力します。
本装置は結果を音声で応答します。
(ログイン時音声内容: "ログインしました。"/ NG時音声内容: "設定出来ません")

3) 情報の設定操作

##1から##9のコマンドを使用して情報の設定を行います。
各コマンドの詳細は「5.2 設定コマンド」を参照して下さい。

##1	非常音声連絡先電話番号1	必須
##2	非常音声連絡先電話番号2	任意
##3	データ通報先電話番号1	不要
##4	データ通報先電話番号2	不要
##5	TaroID(DTMF-ID)	任意
##6	非常音声発信待ち時間	任意
##7	Taroモード (NTT回線でパルスDPの場合は必須)	任意
##8	かご内アナウンス録音	任意
##9	現場名アナウンス録音	必須
**3800	かご内アナウンスの消去	任意
**381X	かご内アナウンス切替	任意
**30n	非常通話発報先③～⑤保守中通話先①～②	任意
**800n	##1～##9設定内容を音声再生	任意
**830n	非常通話及び保守中通話発報先電話番号を音声再生	任意
**838n	かご内アナウンス設定内容をアナウンスにてお知らせ	任意
**901	通話時間延長	任意
**320nn	非常ボタン押下げ検知時間の設定	任意
**372n	現場名通知種別設定	任意
**8320	非常ボタン押し下げ検知時間を音声アナウンス	任意
**8372	現場名通知種別を音声アナウンス	任意

4) 回線の切断

必要な設定が完了したら、終話ボタンを押します。
標準的な通話時間は約4分です、通話時間を経過すると本装置は回線を自動切断します。
通話延長操作を行う事で最大8分間の通話が可能です。(操作方法 **901*#)



注意

※ ログイン並びに情報の設定操作は、ゆっくり・確実に操作してください。

『設定できません・設定できません・設定できません』と繰り返した時は一旦操作を止めて下さい。

5. 2 設定コマンド

【##0】ログイン

機能 設定モードにログインします。
入力 ##09999
備考 パスワードの後ろに*#を入力する必要はありません。

【##1】非常音声連絡先電話番号1

必須

【##2】非常音声連絡先電話番号2

任意

機能 非常音声連絡先電話番号1、2を登録します。
形式 ##1ttt...ttt*#
##2ttt...ttt*#
ttt...ttt: 非常音声連絡先電話番号
最大20桁(0~9 #)
#は桁間ポーズ3secを表します。

入力例 ##10454781234*# 045-478-1234を非常音声連絡先電話番号1に登録。

備考 未設定で出荷。

【##5】TaroID(DTMF-ID)

任意

機能 TaroIDを登録します。
形式 ##5ttt...ttt*#
ttt...ttt: TaroID
最大16桁の数字

入力例 ##51112345*# 1112345をTaroIDに登録。

備考 未設定で出荷。

TaroIDは利用者が任意に設定できる、本装置の識別番号です。
非常通話発報時に自動でセンター側に通知します。
利用者はこの識別番号を現場を特定する為に使用することができます。
本装置では、後で述べる「現場名アナウンス」でも現場を特定できます。

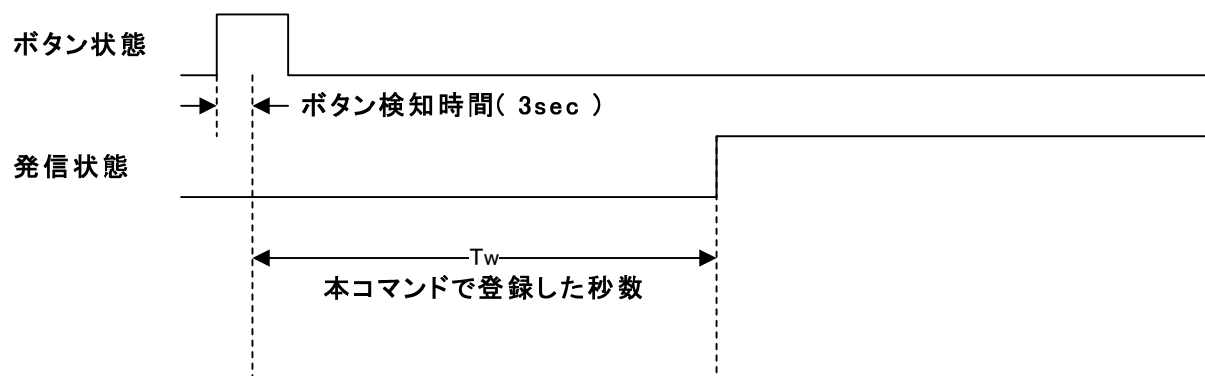
【補足説明 TaroID】

- ・利用者が本装置を識別する為に付与できる識別番号です。
 - ・非常通報時に本装置は自動でこの識別番号をセンター側の電話機に通知します。
 - ・利用者はこの識別番号から現場を特定することが可能です。
- ※ 本装置では、後述する「現場名アナウンス(##9)」でも現場名を特定することができます。

【##6】非常音声発信待ち時間

任意

機能 非常音声発信待ち時間を登録します。
形式 ##6nnn*#
nnn: 非常音声発信待ち時間(秒)を3桁の数字(1~255)で指定。
入力例 ##610*# 10秒を指定。
備考 出荷時の値は6秒。



発信種別が“0”の時、 T_w 内に親機が応答した場合は音声モード発信を行いません。

【##7】Taroモード

任意

機能 Taroモードを設定します。

形式 ##7nmljk*#

n: 電話回線種別の指定(LTE回線では無効)

0=PB-Tone

1=DP 10PPS

2=DP 20PPS

m: 発信機能の指定

0=# #6で指定した時間内に親機が応答したら非常音声発信を行わない。

1=親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う。

2=本装置では指定不可能。(Taro4機能)

l: 着信時の応答方法の指定

0=音声応答。

1=自動判別。

2=データ応答。

3=着信拒否。

j: 電源制御の指定(本装置では無効)

0=未使用。

1=工場出荷。

k: 非常音声発信時のブザーとアナウンスの制御の指定

0=ブザー無し、アナウンス有り

1=ブザー有り、アナウンス有り

2=ブザー有り、アナウンス無し

3=ブザー無し、アナウンス無し

4=ブザー無し、アナウンス無し(相手応答まで)

入力例 ##710111*#

備考 出荷時の値は“01111”です。

n = 0:PB-Tone

m = 1:親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う

l = 1:自動判別

j = 1:工場出荷

k = 1:ブザー有り、アナウンス有り

着信時の応答方法に下記の値を指定した場合は、外部電話機からの着信による設定変更はできません。

l=2 (データ応答)

l=3 (着信拒否)

この場合、非常通報発報を行って、相手電話機よりログイン操作をすれば設定変更可能です。

【##8】 かが内アナウンス 任意

- 機能 かが内アナウンスを録音
- 形式 ##8
- 入力例 ##8
- 動作 ① ##8を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる。
② "ピー"という音が聞こえたら録音開始。
③ 送話器よりの音声を7秒間録音する。
- 備考 出荷時の録音内容は下記の通り
「ただいまセンターへ接続中です、暫くお待ち下さい。」
出荷時の録音内容に戻すには「**3800*#」を入力して下さい。

【##9】 現場名アナウンス 任意

- 機能 現場名アナウンスを録音
- 形式 ##9
- 入力例 ##9
- 動作 ① ##9を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる。
② "ピー"という音が聞こえたら録音開始。
③ 送話器よりの音声を最大12秒間録音する。(12秒より短い場合*#で完了させる事が可能です。)
- 備考 出荷時は録音されていません(無音)。

※ 32・36 ページの現場名アナウンス再生機能をご参照下さい。

【**3800】 かが内アナウンスの消去 任意

- 機能 かが内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す
- 形式 **3800*#
- 入力例 **3800*#
- 動作 かが内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す。『只今センターへ接続中です。暫くお待ち下さい。』
- 備考 新たに録音する場合は「##8」を使用して下さい。

【**381X】 かが内アナウンス切り替え設定 任意

- 機能 かが内アナウンスを設定します。
- 形式 **381X*#
- 入力例 1) **3810*# 標準＝只今センターへ接続中です。暫くお待ち下さい。
2) **3811*# ユーザー設定＝ユーザー録音内容
- 動作 かが内アナウンスを出荷時の録音内容に設定する。もしくは、ユーザーで録音した内容に切り替える
- 備考 新たに録音する場合は「##8」を使用して下さい。

【**30n】 非常通話発報先電話登録機能③～⑤ 任意

- 機能 非常通話③～⑤発報先電話番号の登録を行います。 n=3～5
- 形式 **30n*#
- 入力例 1) **3030454781790*# 発報先登録電話番号③に045-478-1790を登録。
2) **3040454781790*# 発報先登録電話番号④に045-478-1790を登録。
3) **3050454781790*# 発報先登録電話番号⑤に045-478-1790を登録。
- 動作 非常通話発報先電話番号登録③～⑤を行います。
- 備考

【800n】 ##1～##9設定内容を音声再生** 任意

機能 ##1～##9設定内容を音声再生 n=1～9

形式 * * 800n * #

- 入力例 1)**8001*# 非常通話先登録電話番号①の登録番号をアナウンス。
2)**8002*# 非常通話先登録電話番号②の登録番号をアナウンス。
3)**8005*# TaroIDの登録番号をアナウンス。
4)**8006*# 非常音声発信待ち時間のアナウンス。
5)**8007*# Taroモードのアナウンス。
6)**8008*# かが内アナウンスのアナウンス。
7)**8009*# 現場名アナウンスのアナウンス。

動作 ##1～##9設定内容を音声再生します。

備考

【830n】 非常通話発報先電話番号を音声再生** 任意

機能 **830nの設定内容を音声再生 n=3～5

形式 * * 830n * #

- 入力例 1)**8303*# 非常通話先登録電話番号③の登録番号をアナウンス。
2)**8304*# 非常通話先登録電話番号④の登録番号をアナウンス。
3)**8305*# 非常通話先登録電話番号⑤の登録番号をアナウンス。

動作 非常通話の発報先電話番号(3～5)をアナウンスします。

備考

【838n】 かがアナウンス設定内容をアナウンスにてお知らせ** 任意

機能 『かが内アナウンスの消去』『かが内アナウンス切り替え設定』内容をアナウンスでお知らせします。

形式 * * 838n * #

- 入力例 1)**8380*# ##9を録音している場合は、『かが内アナウンスは録音されています』。
##9を録音してない場合は、『かが内アナウンスは録音されていません』。
2)**8381*# **381が0の場合、『かが内アナウンス種別は0です。』と再生します。
**381が1の場合、『かが内アナウンス種別は1です。』と再生します。

動作 **380と**381の設定内容を音声でお知らせします。

備考

【901】 通話時間延長機能** 任意

機能 通話中時間を4分延長

形式 * * 901 * #

入力例 **901*#

動作 直接通話中にこのコマンドをコールセンター側の電話機から設定操作をすると4分間通話時間が延長される。(操作は1回のみ有効)

備考

【**320nn】 非常ボタン押し下げ検知時間の設定 任意

機能 リモート設定で非常ボタン押し下げ時間を設定。
形式 * * 3 2 0 n n * #
入力例 **32010*# 非常ボタン押下時間10秒を設定
動作 かご内非常ボタンを押した時にカウントされて押下確定するまでの検知時間。もし、設定時間内の押し下げ時間で有れば、発報動作にならない。(いたずら防止機能)
備考 押下ワンショットで保持されるインターホンに付いては、有効ではありません。
出荷時は2秒に設定されています。

【**372n 現場名通知種別設定】 任意

機能 現場名通知種別設定
形式 * * 3 7 2 n * # n=0~3
入力例 1)**3720*# 0:手動。
2)**3721*# 1:自動(発信)。
3)**3722*# 2:自動(着信)。
4)**3723*# 3:自動(双方向)。
動作 装置から発報呼出し後に接続した際に現場名アナウンスを自動/手動で再生させる。
備考

【**8320 非常ボタン押し下げ検知時間を音声アナウンスでお知らせ】 任意

機能 非常ボタン押し下げ検知時間を音声アナウンスでお知らせします。
形式 * * 8 3 2 0 * #
入力例 **8320*#
動作 非常ボタン押し下げ確定時間を音声アナウンスでお知らせします。
備考

【**8372 現場名通知種別を音声アナウンス】 任意

機能 現場名通知種別を音声でアナウンスします。
形式 * * 8 3 7 2 * #
入力例 **8372*#
動作 **372で設定内容を音声アナウンスでお知らせします。
備考

6 動作確認作業

6.1 発信動作・着信動作の確認

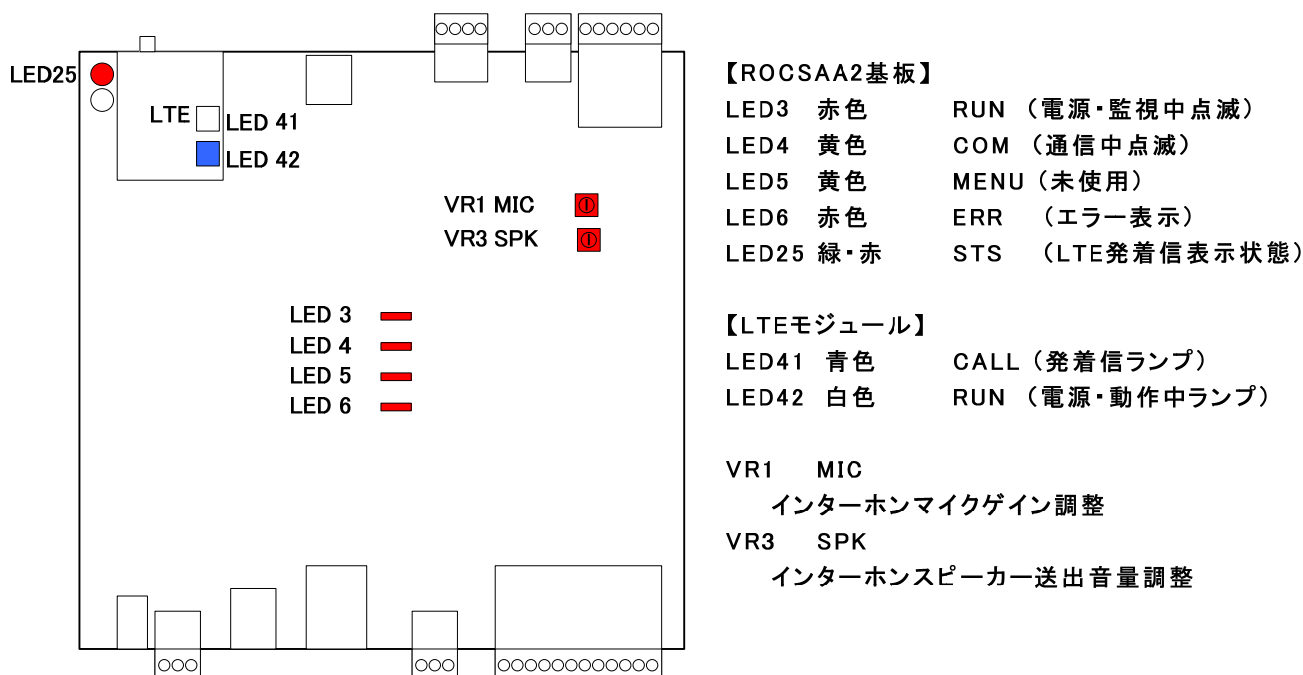


図6.1-1-a 実装図(状態LED)

1) 発信動作確認

- ① かご内インターホン子機の非常ボタンを3秒間押す。
- ② 非常ボタンが押された事を感じ発信動作を開始します。(非常音発鳴します)
- ③ かご内子機にアナウンス(かご内アナウンス)が再生され、設定された電話番号に発信します。
- ④ 設定された"非常音声連絡先電話番号1"に発信し、
「無応答」「話中」等で相手に接続できない場合は、次の電話番号に発信します。
"非常音声連絡先電話番号1" ⇒ "非常音声連絡先電話番号2"
接続されるまで、4サイクル(8回)繰り返します。
1:"非常音声連絡先電話番号1" ⇒ "非常音声連絡先電話番号2"
2:"非常音声連絡先電話番号1" ⇒ "非常音声連絡先電話番号2"
3:"非常音声連絡先電話番号1" ⇒ "非常音声連絡先電話番号2"
4:"非常音声連絡先電話番号1" ⇒ "非常音声連絡先電話番号2"
非常音声連絡先電話番号2が未設定の場合は、4サイクル(4回)繰り返します。
1:"非常音声連絡先電話番号1"
2:"非常音声連絡先電話番号1"
3:"非常音声連絡先電話番号1"
4:"非常音声連絡先電話番号1"
- ⑤ 相手が応答すると"Taroid (DTMF-ID)"を通知後、相互通話が可能となります。
Taroid (DTMF-ID)が未設定の場合は、即相互通話になります。
Taroid (DTMF-ID)は通常、音声にて通知します。
- ⑥ 相互通話は通常、4分間可能です。(延長可能 31ページを参照)
相互通話可能時間の10秒前に警告音が流れ、相互通話可能時間を過ぎると自動切断します。
- ⑦ 相互通話中の確認内容は"6.2 通話中の動作確認"を参照して下さい。

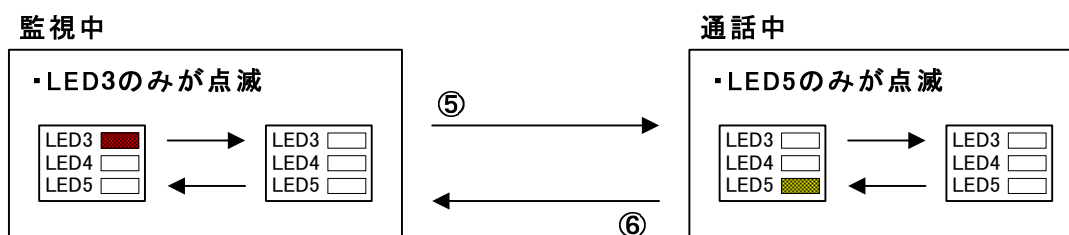


図6.1-2-a 状態LEDの遷移(NTT音声発信)

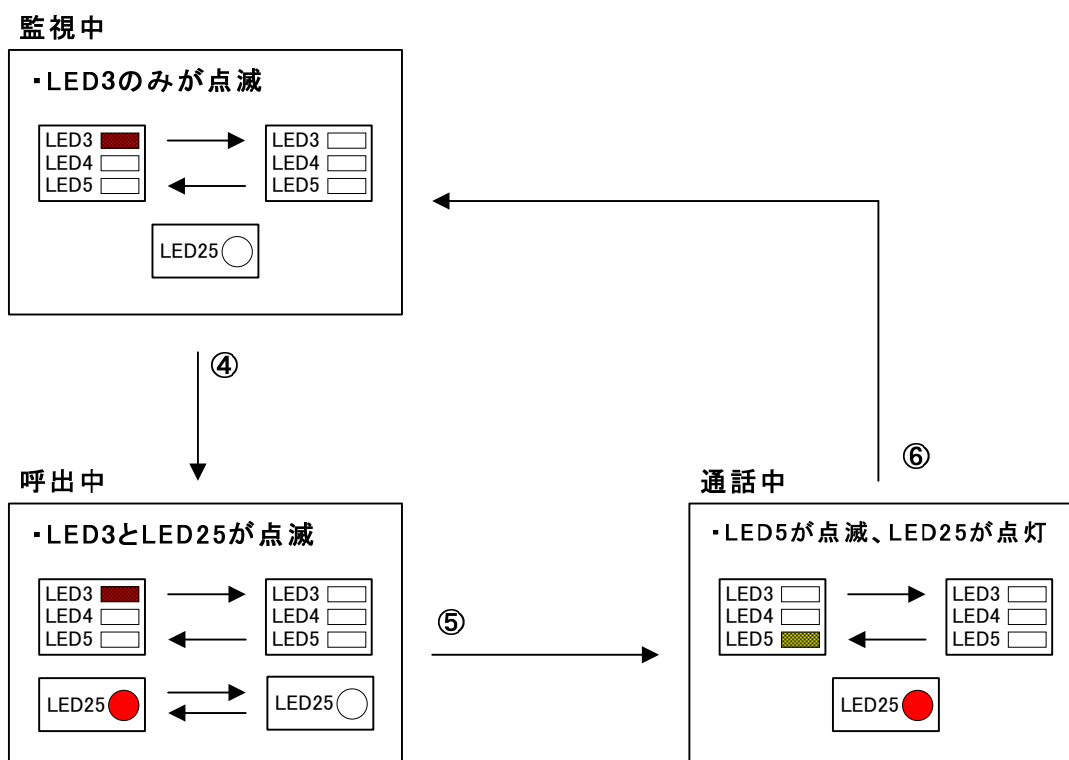


図6.1-2-b ROCSAA2基板 LEDの遷移(監視中～呼出し～通話中)

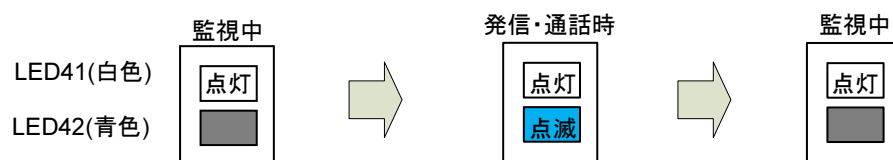


図6.1-2-c LTEモジュール LEDの遷移(LTE音声発信)

2) 着信動作確認

【NTT回線の場合】

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。
- ③ 呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。
- ④ 連続音が止まると電話回線の接続通話状態になりますので、号機を選択して下さい。
単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。
詳細は”6. 2 通話中の動作確認”を参照して下さい。
- ⑤ 発信側より終話ボタンを押すことで回線を切断します。
相互通話可能時間を越えると自動切断します。
- ⑥ 相互通話中の確認内容は”6. 2 通話中の動作確認”を参照して下さい。

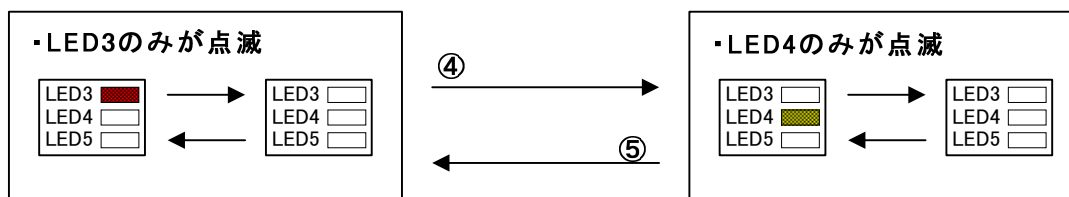


図6.1-2-a 状態LEDの遷移(NTT音声着信)

【LTE回線の場合】

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。
- ③ 連続音が止まると電話回線の接続通話状態になりますので、号機を選択して下さい。
単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。
詳細は”6. 2 通話中の動作確認”を参照して下さい。
- ④ 発信側より終話ボタンを押すことで回線を切断します。
相互通話可能時間を越えると自動切断します。
- ⑤ 相互通話中の確認内容は”6. 2 通話中の動作確認”を参照して下さい。

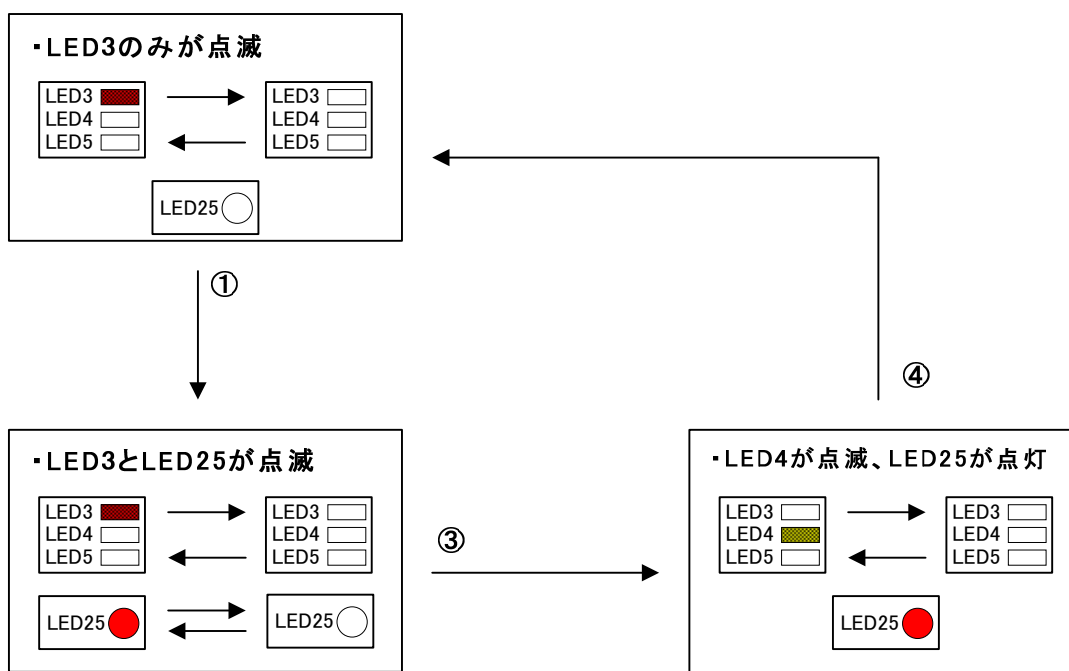


図6.1-2-b 状態LEDの遷移(LTE音声着信)

着信中のLTEモジュール LEDの変遷

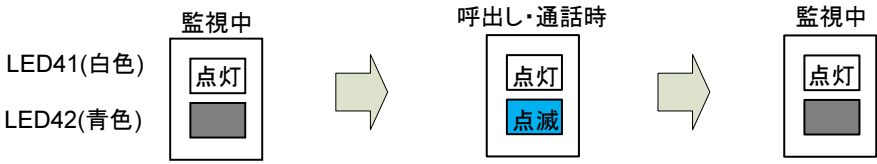


図6.1-2-c LTEモジュール LEDの遷移(LTE音声着信)

6. 2 通話中の確認

1) 音量の調整

インターホンマイクゲイン(マイクで拾った音をどの程度の音量と音圧で入力するかを決めるものです。)

VR1 MICを精密マイナスインドライバーを使用して調整します。(かご内子機インターホンマイク感度)

インターホンスピーカー音量

VR3 SPKを精密マイナスインドライバーを使用して調整します。(かご内子機インターホンスピーカー音量)

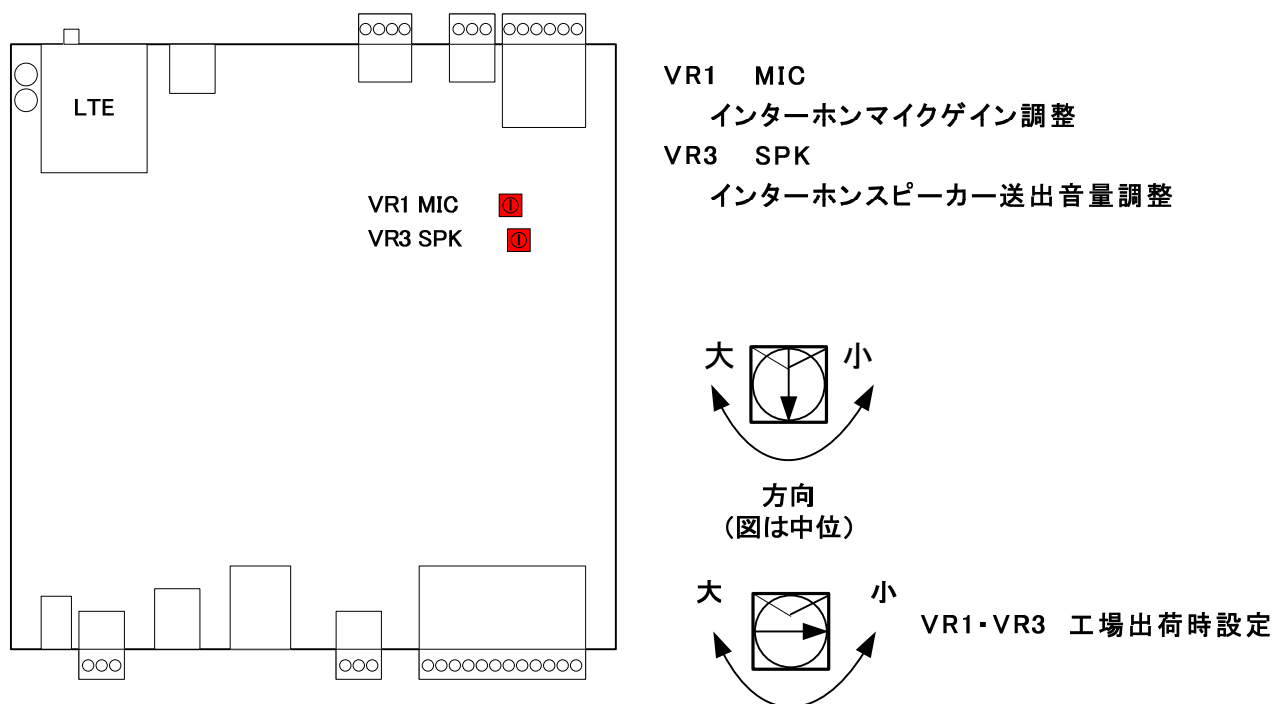


図6.2-1 実装図(調整用ボリューム)

2) 現場名アナウンス

コールセンター側電話機より”#*”を入力すると”##9”で録音した現場名アナウンスを再生します。
(自動再生も可能です。33ページ **372n 現場名通知種別設定をご参照下さい。)

3) インターホンの子機選択

コールセンター側電話機より下記のコマンドを入力することで子機を選択できます。(単局・多局共に操作下さい。)

- #1 1号機を選択します(1号機に切り替えます)
- #2 2号機を選択します(2号機に切り替えます)
- #3 3号機を選択します(3号機に切り替えます)
- #4 4号機を選択します(4号機に切り替えます)

1号機と通話中に”#03”を入力した場合、通話先が1号機と3号機の3者通話になります。

- #01 1号機を追加選択します(会議モード)
- #02 2号機を追加選択します(会議モード)
- #03 3号機を追加選択します(会議モード)
- #04 4号機を追加選択します(会議モード)

#9 全てのインターホン子機の実行中の子機を接続解除します。

7 終了作業

7.1 バッテリーの接続

1) バッテリーの接続

ACアダプター添付品(DT6B-*-*B*)の場合、J2-BATに付属のバッテリーを接続します。

注意) バッテリーは消耗品です、2年をめどに交換をお願いします。

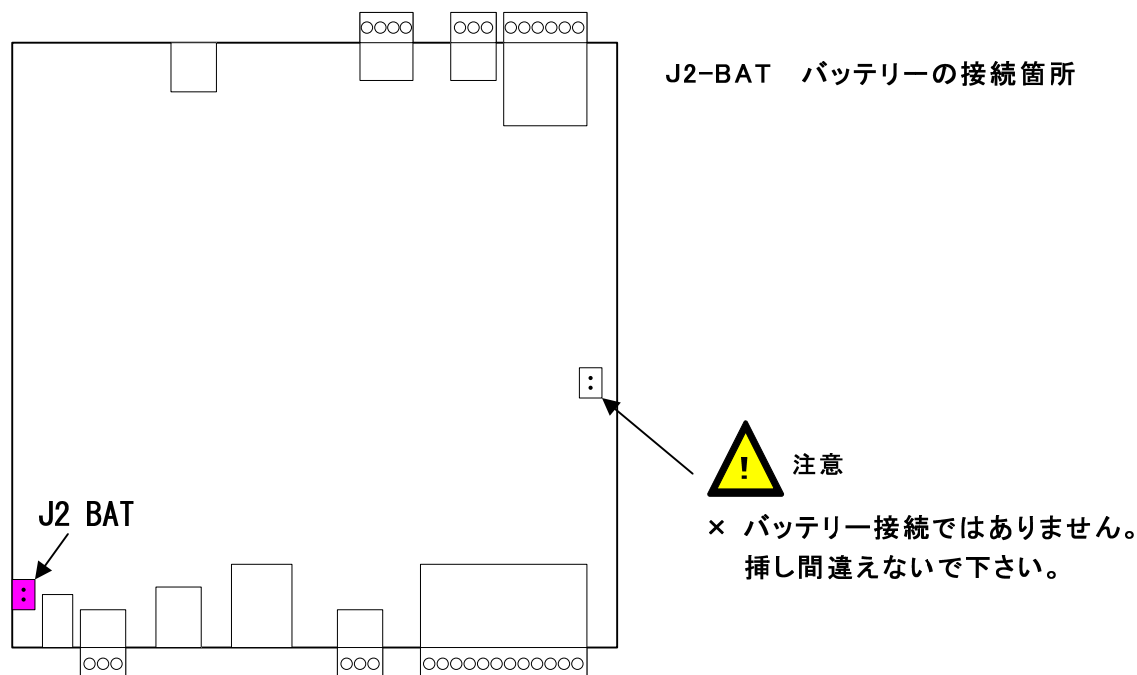


図7.1-1 バッテリーの接続箇所

2) 上蓋を閉じる

本装置の上蓋を閉じます。

バッテリー型式(交換目安: 2年)

型式: 130AAM6BMX
7.2V 1300mAh

8. 特記事項

1) 電源モジュール無しタイプ (客先DC9Vを使用した場合)

a. 外部電源 (DC9V) 要求仕様

- ・無停電保証電源であること。
- ・DC9V \pm 0.5V (電流容量100mA \sim 600mA)、リップルノイズ50mV以下、ピークノイズ無きこと。

2) NTT回線タイプ (DT6B-M-***)

本装置の直流回路の抵抗値は334 Ω です。

線路抵抗条件によってはご使用できませんのでご注意ください。

9. インターホン信号真理値表

9. 1 6V単局 / 6V多局LEDランプ動作表示

6Vインターホン接続の時に発報しない? 通話ができない? 着信したが話ができない? などの不具合が有る場合は、インターホン接続が間違っていることがあります。下記を参照してインターホン接続信号を確認下さい
尚、基板のLED部品配置図は44ページをご覧ください。

		6V単局				
		発報時			着信時	
LED番号	インターホン 記号	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	L	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	R	OFF	ON	ON	OFF	ON

		6V多局				
		発報時			着信時	
LED番号	インターホン 記号	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	L	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	R	OFF	ON	ON	OFF	ON
LED13	M1	OFF	ON	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED14	M2	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED15		OFF	ON(1号機)	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16		OFF	ON(2号機)	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17		OFF	ON(3号機)	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18		OFF	ON(4号機)	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED19	M3	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED20	M4	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)

9.2 24V単局 / 24V多局LEDランプ動作表示

24Vインターホン接続の時に発報しない？通話ができない？着信したが話ができない？などの不具合がある場合は、インターホン接続が間違っていることがあります。下記を参照してインターホン接続信号を確認下さい。基板のLED配置図は44ページをご覧ください。

		24V単局				
		発報時			着信時	
LED番号	インターホン 配号	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED15	1A	OFF	OFF	ON	OFF	ON
LED21	1B	OFF	ON	OFF	OFF	OFF

		24V多局				
		発報時			着信時	
LED番号	インターホン 配号	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED15	1A	OFF	OFF	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16	2A	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17	3A	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18	4A	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED21	1B	OFF	ON(1号機)	OFF	OFF	OFF
LED22	2B	OFF	ON(2号機)	OFF	OFF	OFF
LED23	3B	OFF	ON(3号機)	OFF	OFF	OFF
LED24	4B	OFF	ON(4号機)	OFF	OFF	OFF

【付録 1】装置仕様

表 付録1-1 動作環境仕様

項目	仕様	
動作温度	0～+45℃	
保存温度	-20～+60℃(梱包状態で)	
動作湿度	30～80%	
保存湿度	5～95% 結露なきこと(保存は保管梱包状態であること)	
温度上昇	+15℃以下であること、ただし放熱器などは除く	
周囲雰囲気	腐食ガスがないこと、一般事務所程度	
漏洩電流	3.5mA以下	
絶縁抵抗	DC500Vの試験電圧により3MΩ以上の絶縁抵抗であること。	
絶縁耐力	AC1000Vの試験電圧により1分間耐えること。 または、AC1200V試験電圧により1秒間耐えること。	
電圧変動	定格電圧±10%で誤動作しないこと。	*1
始動電圧	定格電圧の85%、115%での電源投入動作が正常に行なえること。	
瞬断	90%→0%→90%の瞬断で1サイクル継続しても正常に動作すること。	
突入電流	コールドスタートおよび、ホットスタート 42A以下、持続時間0.5秒以下	

*1 ACアダプターを使用した場合(DT6B-**-B*)

表 付録1-2 一般仕様

項目	細項目	仕様	
電源	DC電源	DC9V±0.5V、MAX600mA	*1
	AC電源	AC100V±10% 100VA	
電池	種類	ニッケル水素電池 7.2V 1300mAh	*2
	充電方式	トリクル充電	
	停電補償時間	30分以上	
	交換時期	2年毎	
耐振動		JIS C 0911準拠	
耐衝撃		JIS C 0912準拠	
発生塵埃		なきこと	
外形		245(L)×195(D)×60(H) 突起物はふくまない	
重量		2kg以下	

*1 客先DC9Vを使用した場合

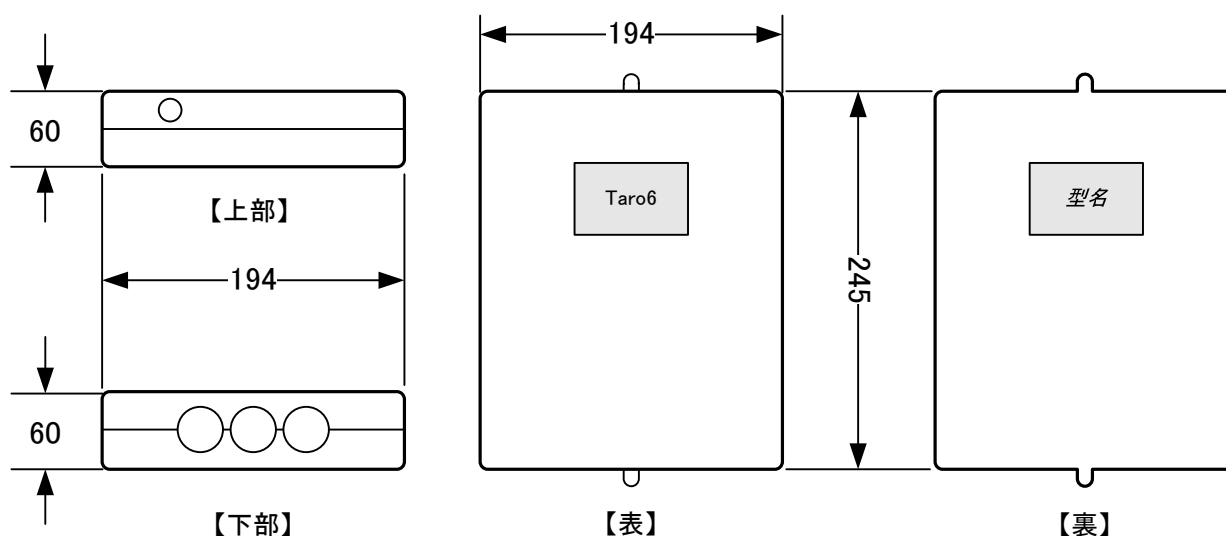
*2 ACアダプターを使用した場合(DT6B-**-B*)

表 付録1-3 通信仕様

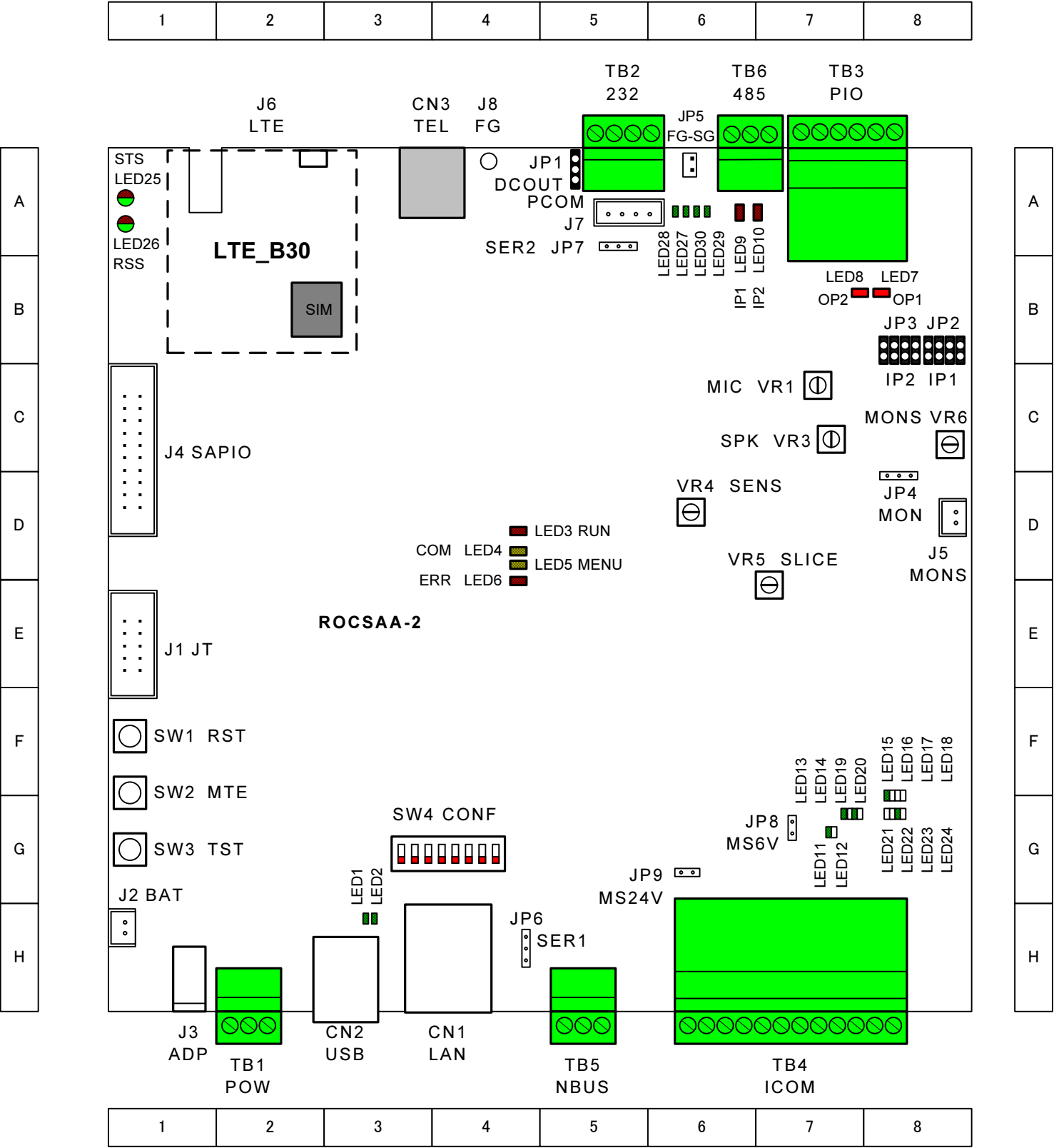
通信モジュール	項目	仕様
NCU (Modem機能)	適用回線	NTT公衆回線
	接続コネクタ	RJ 11 (モジュラー6極2芯)
	選択信号	DP(10PPS/20PPS) PB
	直流抵抗	334 Ω
	網制御機能	自動(AA)
	自動発信・リダイヤル機能	有り
Modem	通信方式	V22bis準拠
	同期方式	非同期
	変調方式	QAM(2400bps)
	通信速度	2400bps
	送信レベル	-9dbm
	受信レベル	-9dBm~-43dBm
	不感動受信レベル	-45dBm
	技術基準適合番号	A08-0133004
LTE (JE-B30)	バンド周波帯域	LTE B1/B8
	通信方式	LTE FDD
	伝送速度	LTE Category 3 - 100 Mbps (DL), 3 - 50 Mbps (UL)
	技術基準適合番号	電波法 R : 0003-150054, 電気通信事業法 T : ADF16004003
	SIMスロット	MicroSIM x1

【付録1-4】 ケース寸法

245mm(L) × 194mm(D) × 60mm(H)(取り付け部含まず)



【付録 2】ROCSAA2基板 部品配置図



注意) 型番によっては実装されていない部品があります。

図 付録2-1 ROCSAA2基板 部品配置図